

**平成30年度
市民と行政・市民と市民のパートナーシップ
年次報告**



下関市

目 次

はじめに	1
1 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法	2

市民と行政のパートナーシップ

2 情報の提供と共有を行った施策	4
3 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況	11
4 条例第 14 条に規定する附属機関等における委員構成の状況	19

市民と市民のパートナーシップ

5 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策	23
6 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法	28
7 市内の市民活動の状況に関する事項	31

資料 1 しものせき市民活動センター 市民活動取材票（平成 30 年度）

資料 2 平成 30 年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告の評価について（答申）

はじめに

本市では、市民と行政、市民と市民が対等の立場で、それぞれの英知を集め実践力をつなぎあい「協働」する「市民参画」という社会システムを築くため、平成17年2月に「下関市市民協働参画条例」を施行し各種施策を推進しています。

本年次報告は、この下関市市民協働参画条例第16条の規定に基づく報告として、1年間に実施した市民協働参画関連施策の調査結果を基に作成し、公表するものです。

本市の平成30年度の市民参画及び市民活動の状況を「市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告」として、ここに報告します。

【参考】年次報告（条例第16条）

第16条 市長は、毎年、市民参画及び市民活動の状況について公表するものとする。

【参考】年次報告（施行規則第5条）

第5条 条例第16条の規定による年次報告に記載する事項は、原則として次のとおりとする。

- (1) 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法
 - (2) 情報の提供と共有を行った施策
 - (3) 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況
 - (4) 条例第14条に規定する附属機関等における委員構成の状況
 - (5) 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策
 - (6) 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法
 - (7) 市内の市民活動の状況に関する事項
- 2 前項の年次報告は、年度終了後、できる限り早い時期に行うものとする。

※以下、本年次報告では、下関市市民協働参画条例を「条例」、下関市市民協働参画条例施行規則を「施行規則」という。

1 市民参画の対象とした施策及び市民参画の方法

(1) 市民協働参画関連施策実施状況

下関市市民協働参画実施機関である課所室等に対し調査を実施した結果、65の課所室等において該当があり、実施事務事業数（予算小事業単位）は205事業、実施施策数は479施策でした。

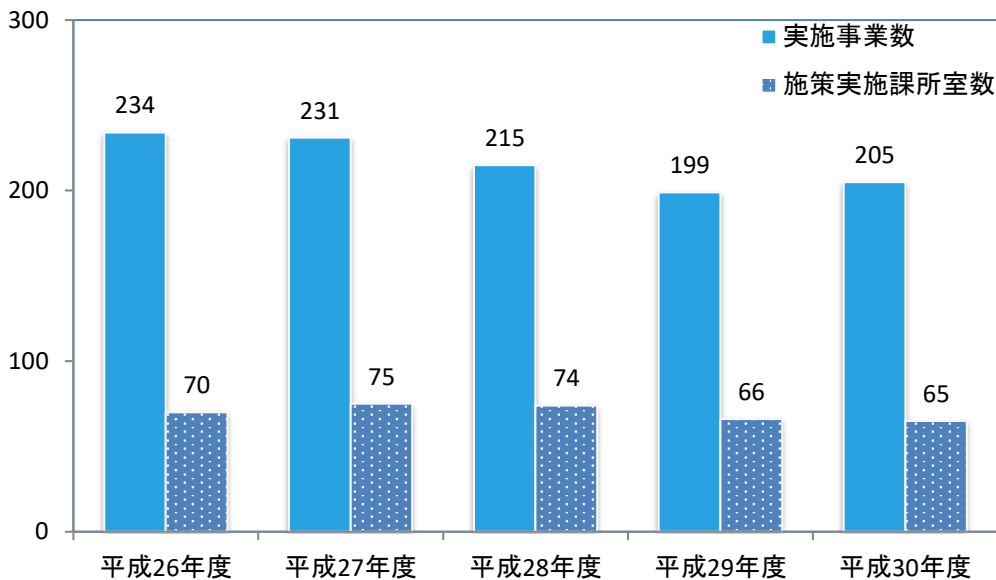


図1 実施事業数及び施策実施課所室数の推移

項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実施施策数	498	499	494	505	479

※ 市民活動団体等への事業後援に係るものを除く

表1 実施施策数の推移

【参考】実施機関（条例第2条第7号）

第2条 この条例において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (7) 実施機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会、公営企業管理者及び消防長をいう。

(2) 市民参画の方法

本年次報告における市民参画の方法については、参画条例第9条に規定するもののほか、一般的によく用いられる以下の分類により整理しています。

<事業の分類>

- 情報提供 : 主として市民に市の情報を提供するもの
- 意見収集 : 主として市民からの意見を市が収集するもの
- 企画・実施段階 : 施策の実施時において市民と協働するもの
- 自主的活動支援 : 市民の公益的活動を支援し、市全体の公益の増進を図るもの

<方法の分類>

	広く市民を対象	一部の市民を対象
情報提供	①広報誌等の活用 ②報道機関の活用 ③インターネットの活用	④説明会の開催
	⑤シンポジウム・フォーラム等の開催 ⑥学習会・研究会の開催	
意見収集	⑦パブリックコメント ⑧アンケート調査の実施 ⑨市民提案・企画・論文等の募集 ⑩広聴会の開催	⑪公聴会の開催 ⑫ヒアリングの実施
企画・実施段階	⑬社会実験の実施 ⑭ワークショップの開催 ⑮審議会・委員会等の開催 ⑯実行委員会や運営協議会等の設置 ⑰事業の市民活動団体等への委託	
自主的活動支援	⑱専門家等の派遣（出前講座） ⑲ボランティア・NPOへの支援	

【参考】市民参画の方法（条例第9条）

第9条 実施機関は、説明会の開催、アンケートの実施、ワークショップの開催、審議会の設置、パブリックコメントの実施等の方法により効果的な市民参画の実現に努めるものとする。

2 情報の提供と共有を行った施策

情報の提供と共有は市民参画の前提となる考え方であり、まちづくりに関して市民と行政が有している情報を互いに提供し、共有することが求められています。ここでは事業を実施するにあたって、行政から市民へ情報提供を行った施策のうち、下記の項目について集計しました。

表2 情報の提供と共有を行った施策数の推移

項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
説明会を開催したもの	16	11	16	26	16
シンポジウム・フォーラム等を開催したもの	6	6	5	4	1
ワークショップを開催したもの	7	9	7	8	11
学習会・研究会を開催したもの	70	70	78	86	81
広報誌等・報道機関・インターネットの活用	52	50	52	52	45
その他	15	12	17	16	13
合計	166	158	175	192	167

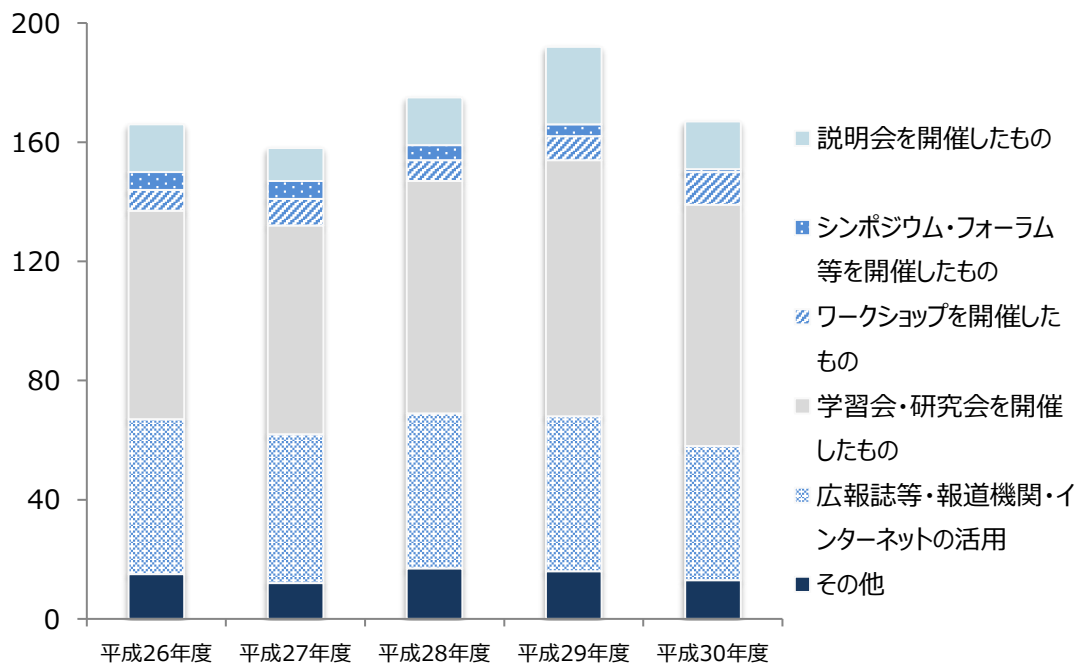


図2 情報の提供と共有を行った施策数の推移

施策事例 説明会を開催したもの・・・ 16 施策

< 事例 >

下関市消防局オープンセミナー（消防業務広報事業）

（概要）

「消防」を職業選択の一つとしてもらうことを目的とし、高校1年生以上を対象に消防業務の説明や庁舎見学、現役消防士の対談などで構成されたオープンセミナーを開催しました。

- 1 日時 平成30年5月20日（日）9時30分～12時00分
- 2 場所 下関市消防局（下関市岬之町17番1号）
- 3 対象 高校1年生以上（保護者の同伴可能）
- 4 内容 9時00分 受付
9時30分 消防局の概要説明
10時00分 消防局庁舎及び消防車両等の見学等
11時00分 現役消防士との対話
12時00分 終了
- 5 参加者 13名



【消防局 総務課】

電話 083-239-9111（直通） Fax 083-224-0519

E-mail sbsomuka@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

◆施策事例 シンポジウム・フォーラム等を開催したもの … 1 施策

<事例>

ミニシンポジウム「発掘調査と古人骨－お墓から何がわかるのか!？」

平成30年度下関市立考古博物館発掘速報展「掘ったほ! 下関 2018」開催に伴うイベントとして、江戸時代の人骨が多数出土した綾羅木郷台地遺跡（石仏地区）をテーマに、お墓を発掘調査することや古人骨を調べるこの意味は何かなど、お墓の調査や研究の奥深さとその意義について考えるミニシンポジウムを土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムと共同で開催しました。



「発掘調査と古人骨－お墓から何がわかるのか!？」

日 時：平成30年8月25日（土）午後1時30分～午後3時

会 場：下関市立考古博物館 講堂

参加人数：51名

(発 表)

- ① 「綾羅木郷台地遺跡（石仏地区）の近世墓」 小林善也（下関市立考古博物館）
- ② 「近世の古人骨研究と近世墓」 高椋浩史（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

(討 論)

パネリスト：小林善也、高椋浩史

コーディネーター：大藪由美子（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）



当日の様子



発掘速報展・会場の様子



綾羅木郷台地遺跡（石仏地区）の出土品

【教育部 文化財保護課】

電話 083-254-4697（直通） Fax 083-254-3062

E-mail kibunkak @city.shimonoseki.yamaguchi.jp

◆施策事例 ワークショップを開催したもの … 11 施策

<事例>

日和山公園周辺地区におけるワークショップの実施（中心市街地北側斜面地調査業務）

本市の中心市街地北側斜面地（日和山公園周辺地区）は、老朽建築物等が密集しており、大規模火災が発生し得る地区です。市街地開発課では、当該地区の住環境の改善整備等を検討しており、地区住民と協働してまちづくりを行うため、平成30年度には、地区の「魅力」と「課題」を抽出することを目的に、ワークショップを開催しました。

開催日時：平成30年10月27日（土）

参加対象者：日和山公園周辺地区住民等

参加人数：28名

ワークショップで抽出された意見

【地区の魅力】

- ・中心市街地へ歩いて行ける
- ・公園が身近にある
- ・通勤や買い物に便利
- ・閑静な住宅街
- ・景色が良い
- ・由緒あるまちである
- ・地区住民のつながりが良好

【地区の課題】

- ・少子高齢化が進んでいる
- ・スーパーなどの生活利便施設が少ない
- ・道がせまい
- ・公園が利用しづらい
- ・空き家や空き地が多い
- ・観光客が少ない（新たな魅力の創出）
- ・避難場所が遠い

ワークショップの様子



【都市整備部 市街地開発課】

電話 083-224-2011（直通） Fax 083-224-2032

E-mail tsshigai@city.shimonoseki.yamaguchi.jp





施策事例 学習会、研究会を開催したもの …… 81 施策

< 事例 >

スタンプラリー しものせき“ぐ〜んといきいき”大作戦

ぐ〜んと健康 21 ネットワークの会は、人と人とのつながりを深め、楽しみながら健康づくりに取り組むことを目的とし市保健部との協働(平成 14 年度から旧豊浦郡で開始)により、健康づくりの輪を広げてきました。菊川・豊田・豊浦・豊北地区での、地域の特性を活かしたウォーキングイベントは、豊かな自然とふるさとの良さを再発見できると好評を得ています。

健康推進課では、平成 30 年度も、市民の皆さんに「健康づくり」について関心を持っていただくため、団体との協働により、これらのウォーキングイベントとふくふく健康 21 フェスタの 5 つをつなぐ、スタンプラリーを実施しました。

<p>ふくふく健康 21 フェスタ 9月1日(土)約650人 シーモール下関4階、 シーモールホール等 健康について考え、実践するための普及啓発イベント。健康チェック、食や運動、心と体の相談など各種コーナーあり。</p>	<p>とよら潮騒 ウォーク(豊浦)  10月12日(金)50人 小串公民館から海岸沿いを歩き、川棚松谷までの往復約8Km</p>	<p>豊北ふるさと再発見 ウォーク 10月21日(日)52人 豊北保健センターから吉田松陰 母タキの実家跡地にある村田記念公園までの往復約6.5Km </p>
<p>ホテルの里 湯遊ウォーク in 豊田  11月18日(日)604人 みのりの丘をスタートし、4、5、8、11Kmのコースに分かれ季節を感じながら歩く。</p>	<p>グリーンシャワー 小日本ウォーク in 菊川 11月25日(日)82人 菊川総合支所から田部川沿いを歩き、植松古墳公園、櫻井八幡宮を経由する約7Km</p>	



(田部川河川敷 菊川)



(村田記念公園 豊北)

【保健部 健康推進課】

電話 083-231-1408 (直通) Fax 083-235-3901

E-mail hkkenkoz@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

◆施策事例 広報誌等・報道機関・インターネットの活用 … 45 施策

<事 例>

ラジオで、はなそ！～Let's 市民活動～（コミュニティFM放送による市民活動情報広報業務）

下関市内では、市民活動団体が様々な分野で公益的な役割を担っています。

市民の皆さんに、広く市民活動団体や市民活動を知っていただくため、カモンFM（コミュニティエフエム下関）のお昼の番組『カモンヒルズ764』内にコーナー「ラジオで、はなそ！～Let's 市民活動～」を設け、団体にご出演いただき、普段の活動の紹介や近日開催するイベントをPRしていただきました。

「ラジオで、はなそ！～Let's 市民活動～」

放送日 平成30年10月～平成31年3月までの第1・第3火曜日

放送時間 午後0時30分から（8分間）

内 容 市民活動団体の活動の紹介や開催するイベントのPR等を放送



< 出演団体（出演日順） >

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ・北高夢ロード実行委員会 | ・馬関奇兵隊 |
| ・潮騒詩の会 | ・下関障害者パソコンサポーター（SSPS） |
| ・下関トーストマスターズクラブ | ・朗読ハウスもがも家 |
| ・愛憐花（あいれんか） | ・NPO法人シンフォニーネット |
| ・permanent reality | ・和風コラボ響 |
| ・歌野の自然とふれあう会 | ・知的障がい者との共生グループ『グラント』 |



平成30年度

ラジオで、はなそ！～Let's 市民活動～



ラジオ収録(カモンFMスタジオ)の様子

【市民部 まちづくり政策課】

電話 083-231-1830（直通） Fax 083-231-1809

E-mail skshimin @city.shimonoseki.yamaguchi.jp

< 事 例 >

下関市立歴史博物館公式アプリ「わくわくれきはく」

下関市立歴史博物館の魅力を発信するアプリケーションで、以下のような機能があります。

・最新情報

下関市立歴史博物館の最新情報を見ることができます。

・展示物解説

当館常設展示場に設置されている専用マーカーにスマホをかざすと展示物の解説が表示されます。

・スタンプラリー

当館内で開催される特別展または企画展会場に入場されるとき、指定のマーカーにスマホをかざすとポイントがたまります。スタンプがいっぱいになるとプレゼントをさしあげます。

・表示言語を変える

展示物の解説は5ヶ国語[日本語、英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、韓国語]対応しており海外からの来館者にも楽しんで頂くことができます。

・道中案内

スマホを通してまわりを見回すと、当館をはじめ下関市が管理する東行記念館や日清講和記念館などのある方角と距離がアイコンで表示されます。またそのアイコンをタップすると、それぞれの情報や目的地までの道案内を表示します。

・360°ビュー

日清講和記念館内の講和の間や高杉晋作の墓などがその場にいるように360°見渡すことができます。

・下関市立歴史博物館 HP

当館のオリジナルホームページを見ることができます。常設展示や特別・企画展示の詳しい情報が閲覧できます。



【教育委員会 教育部 歴史博物館】

電話 083-241-1080 (直通) Fax 083-245-3310

E-mail kihakubu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

3 実施機関の施策の推進に関して市民から提出された意見の件数及び回答状況

施策を実施するにあたって、内容や段階に応じて効果的な市民参画が可能となるような方法を採用することが重要です。その一段階として施策へ反映させるために市民の意見を求めたものを集計しました。

表3 意見の収集方法とその施策数の推移

項 目	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
パブリックコメント	14	14	4	11	10
アンケート	45	41	42	45	37
市民提案・企画・論文等の公募	1	1	1	1	1
公聴会・広聴会・ヒアリング等	6	0	1	2	1
市長へのはがき・Eメール等	2	2	2	2	2
その他	6	5	3	3	7
合 計	74	63	53	64	58

【参考】パブリックコメント

条例において例示されている市民参画の手法の1つであり、市の基本的な施策等を決定する過程において、その施策等の案を広く市民に公表し、これに対して市民から提出された意見等の概要及びこれに対する市の考え方等を公表するとともに、その市民から提出された意見等を考慮して当該施策等の案の決定を行う一連の意見募集に関する手続。

(1) パブリックコメントを実施した施策について

パブリックコメントを実施した施策は10施策で、意見の応募総数は397件でした(表4)。

表4 パブリックコメントを行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	実施期間	応募 総数	意見の反映※	公表 状況
「公共施設の適正配置に関する方向性(案)」に対する意見の募集【行政管理課】	H30.6.14～ H30.7.13	155件	B:155	公表
下関市女性活躍推進計画(第3次下関市男女共同参画基本計画一部改訂)に対する意見の募集【人権・男女共同参画課】	H30.9.3～ H30.10.2	9件	A:1 B:1 C:2 E:4 F:1	公表
下関市地域医療の確保に関する基本計画(案)に対する意見の募集【地域医療課】	H31.3.18～ H31.4.17	14件	A:1 B:6 E:7	公表
平成31年度食品衛生監視指導計画に対する意見及び要望の聴取【生活衛生課】	H31.2.1～ H31.2.28	0件	-	公表
第2次下関市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)【素案】に対する意見の聴取【環境政策課】	H30.12.14～ H31.1.15	5件	C:1 E:4	公表
新総合体育館基本構想(案)に対する意見の募集【スポーツ振興課】	H31.1.4～ H31.2.4	25件	B:23 D:2	公表
下関港「あるかぼーと」におけるウォーターフロント開発の推進に対する意見の募集【港湾局経営課】	H30.7.6～ H30.8.6	100件	A:14 B:84 D:2	公表
下関港長期構想に対する意見の募集【港湾局経営課】	H30.4.18～ H30.5.18	50件	B:46 C:2 D:1 E:1	公表
下関港港湾計画に対する意見の募集【港湾局経営課】	H30.11.12～ H30.12.12	34件	B:21 C:4 D:9	公表
下関市新下水道ビジョン(案)に対する意見の募集【下水道整備課】	H30.9.3～ H30.10.2	5件	A:1 B:3 E:1	公表

※意見の反映区分

A：意見を踏まえて施策を補足修正、又は追加したもの 17件

B：施策実施にあたって考慮すべき事柄として参考とするもの 339件

C：既に対応済みのもの 9件

D：反映が困難なもの 14件

E：情報、感想、質問等に対応の対象とならないもの 17件

F：意見提出の定めに違反して提出されたもので回答を公表しないもの 1件

施策事例 パブリックコメントを実施した施策について …… 10 施策

< 事 例 >

下関港「あるかぼーと」におけるウォーターフロント開発の推進

下関港東港地区、岬之町地区（あるかぼーと）は、現在、海辺の有するポテンシャルを最大限に活かし中心市街地と一体となった交流拠点として、ハイクオリティなウォーターフロント開発の段階的な整備を検討しています。

今後の開発の方向性について第1回あるかぼーと開発推進協議会で議論、提示した内容に関して市民の意見を広く募集するため、下記のとおりパブリックコメントを実施いたしました。

「下関港ウォーターフロント開発」に関する意見募集

実施期間 平成30年7月6日（金）～平成30年8月6日（月）まで

公表資料 サウンディング調査結果について
全体コンセプト（案）について
開発スケジュール（案）について
事業者公募手順の骨子（案）について

文書の閲覧場所 港湾局経営課、本庁舎新館ロビー、各総合支所、本庁管内12支所、市HP

意見の提出方法 港湾局経営課への持参、郵便、FAX、電子メール
所定様式に住所、氏名又は団体名、電話番号、意見を記入

意見の件数 100件（29名）

回答状況 市HPによる公表
あるかぼーと開発推進協議会（官民連携協議会）にて集計発表



【 港湾局 経営課 】

電話 083-231-1390（直通） Fax 083-233-0860

E-mail kwkeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

(2) アンケートを実施した施策について

アンケートを実施した施策は37施策で、その回収率は6.9%でした。

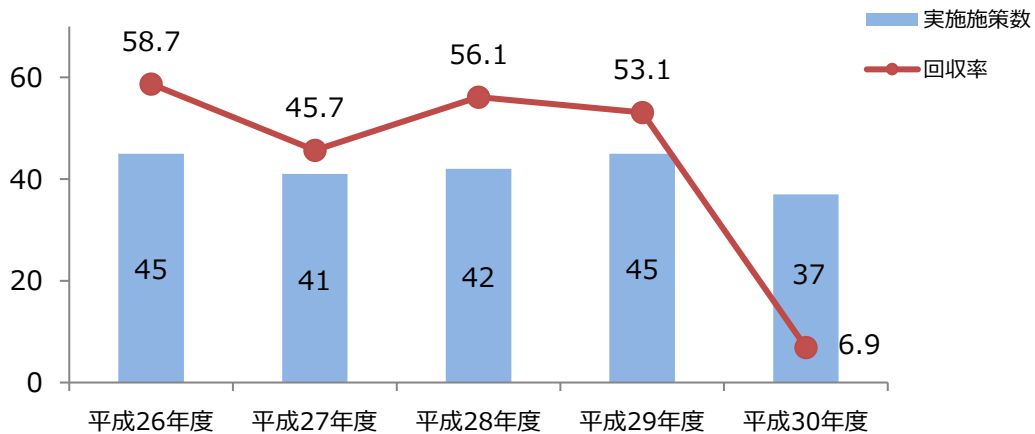


図3 アンケートを実施した施策数とその回収率の推移

※回収率については、実施施策のうち配布数と回収数が把握できるもので算出

※平成30年度の回収率が著しく低いのは、市報アンケートの回収率が低かったことによるもの。

(3) 市民提案・企画・論文等の公募を行った施策について

市民提案・企画・論文等の公募を行った施策は1施策でした（表5）。

表5 市民提案・企画・論文等の公募を行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	概要	意見等 応募者数	公表状況
下関市景観賞の募集 【都市計画課】	建築の保存と活用部門（原則築造5年以上）、景観を守り育てる活動部門の実施	37件	公表

(4) 公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策について

公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策は1施策でした（表6）。

表6 公聴会・広聴会・ヒアリング等を行った施策

具体的事業名または目的【担当課】	概要	参加者数	公表状況
下関市の地域医療の確保に関する「市民の意見を聴く会」【地域医療課】	「地域医療の確保に関する基本計画」の策定にあたり、市民から意見を求めるもの。	8人	公表

◆施策事例 アンケートを実施した施策について … 37 施策

<事例>

新総合体育館に関する市民アンケート調査

市民の皆さまに日頃のスポーツから各種大会・イベントまで幅広くご利用いただいている下関市体育館（向洋町一丁目）は、築50年以上が経過して老朽化が進んでおり、耐震性も十分でない状況です。市民の皆さまが安心・安全にスポーツを楽しんでいただけるよう、新総合体育館の整備を検討するにあたり、新総合体育館を「どういった体育館にするのか」、「どういった設備が必要なのか」といった基本構想を策定するため、広く市民の皆さまからご意見をお伺いしました。



■ アンケート実施概要

【実施方法】 無作為抽出した、下関市在住の18歳以上の男女計2,500名に

アンケート用紙を郵送

【実施期間】 平成30年10月1日（月）～平成30年10月31日（水）

【回答方法】 郵送又はWebにて回答

【有効回答数】 956名（回答率38.24%）



【観光スポーツ文化部 スポーツ振興課】

電話 083-231-2789（直通） Fax 083-231-2746

E-mail kitaiiku@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 市民提案、企画、論文等の公募を行った施策について … 1 施策

< 事 例 >

下関市景観賞の募集

下関市の良好な景観の形成に向けて、「下関市景観条例」に基づき、市民への景観まちづくりに対する関心の醸成、活動者の更なる意識高揚を図るため、「下関市景観賞」を実施しました。

< 募集対象 >

下関市内において、以下の要件をみたすもの

- 良好な景観を形成している民間の建築物、工作物で、築造 5 年以上のもの
- 良好な景観を形成するための活動を行っている市民、事業者、団体等

< 募集方法及び応募件数 >

- 1) 募集期間：平成 30 年 6 月 1 日（金）～ 平成 30 年 7 月 13 日（金）
- 2) 募集広報：市ホームページ、市報 6 月号
- 3) 応募件数：37 件

< 表 彰 >

- 1) 日時：平成 30 年 10 月 19 日（金）15:00～
- 2) 場所：下関市役所本庁舎本館（仮庁舎）1 階 市長応接室

< 表彰対象 >

【活動部門】	【活動部門】	【建築部門】
		
<p style="text-align: center;">景観賞 勝山ホテル守る会</p>	<p style="text-align: center;">景観賞 勝山三山を守る会</p>	<p style="text-align: center;">景観賞（奨励賞） 旧殿居郵便局</p>

【都市整備部 都市計画課】

電話 083-231-1225（直通） Fax 083-231-4799

E-mail tstoshik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 公聴会、広聴会、ヒアリング等を行った施策について … 1 施策

< 事 例 >

公聴会（市民の意見を聴く会）
～地域医療について意見を述べてみませんか～

下関市が将来の医療提供体制の全体像やその実現のために取組むべき事項を示す下関市地域医療の確保に係る基本計画を策定するにあたり、市民のご意見をお聴きし、基本計画に反映させていくことを目的として、公聴会（市民の意見を聴く会）を開催しました。

公聴会で発言者の皆さまからいただいた下関市地域医療の確保に関する貴重なご意見につきましては、下関市が令和元年5月に策定した「下関市地域医療の確保に関する基本計画」の参考とさせていただきます。

公聴会（市民の意見を聴く会）

～地域医療について意見を述べてみませんか～

日 時 平成30年12月24日（月・振替休日）

11:00～11:40

場 所 海峡メッセ下関 10階 国際会議場

発言者 8人

テーマ 下関市地域医療の確保に関すること

下関市地域医療の確保に関する外部有識者検討会

委員にも参加いただきました。



【保健部 地域医療課】
電話 083-231-1714（直通） Fax 083-231-1719
E-mail smbyoink@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

(5) 市長へのはがき・Eメール等

表7 内容別受付件数<秘書課受付分>

内 容	はがき	Eメール	計
新規提言等	13	51	64
苦情・要望等	98	240	338
照会・質問	14	19	33
その他	29	49	78
合 計	154	359	513

表8 内容別受付件数<上下水道局受付分>

内 容	電話	文書	ファクシミリ・ 電子メール	来局	その他	計
苦情・要望等	5	0	0	4	1	10
問合せ	0	0	0	0	1	1
合 計	5	0	0	4	2	11

4 条例第 14 条に規定する附属機関等における委員構成の状況

附属機関等とは、地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置する審議会その他の附属機関及び調停、審査、諮問、調査等を目的としない行政運営上の意見の聴取、懇談等を行うため、要綱等の定めるところにより設置される組織のことをいいます。

条例第 14 条では、学識経験者や関係者、公募市民等で構成する附属機関等は、行政プロセスにおいて重要な役割を担っており、審議や答申等を通じて市民参画を実現する重要な方法の一つとして位置づけています。

本項目では、附属機関等を市民参画の視点からより有効に機能させるため、委員選任にあたっての留意事項である、「委員の公募状況」「年齢構成」「男女比率」「在期数」「兼職状況」について調査しました。

また、市民参画の対象として相応しい附属機関等を明らかにするために、市職員のみで構成されるもの、市内部の事務処理等の為に設置されているもの、休止中のものを除いています。

【参考】条例第 14 条（附属機関等の委員）

第 14 条 実施機関は、附属機関等（地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置する審議会その他の附属機関及び調停、審査、諮問、調査等を目的としない行政運営上の意見の聴取、懇談等を行うため、要綱等の定めるところにより設置される組織をいう。以下同じ。）の委員を委嘱し、又は任命しようとするときは、一部又は全部の委員を公募により選出された委員（以下「公募委員」という。）とするとともに、男女比率、年齢構成、在期数及び他の附属機関等の委員との兼職状況等を勘案して選考するものとする。

(1) 委員の公募状況

平成30年度における調査対象附属機関等は80機関あり、うち公募委員を含むものは8機関（うち1機関が構成員の変更無）で、公募の実施率は8.8%でした。

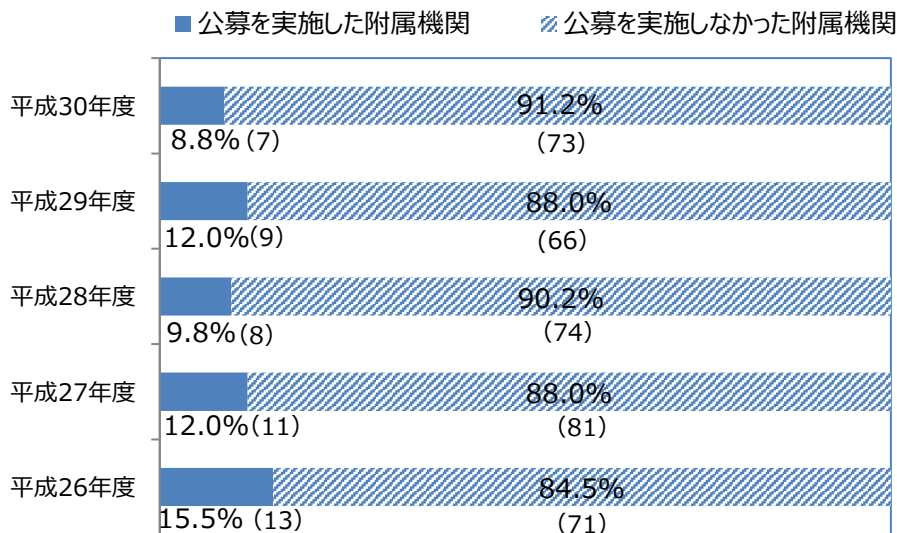


図4 附属機関委員の公募の状況

※ () 数は附属機関数

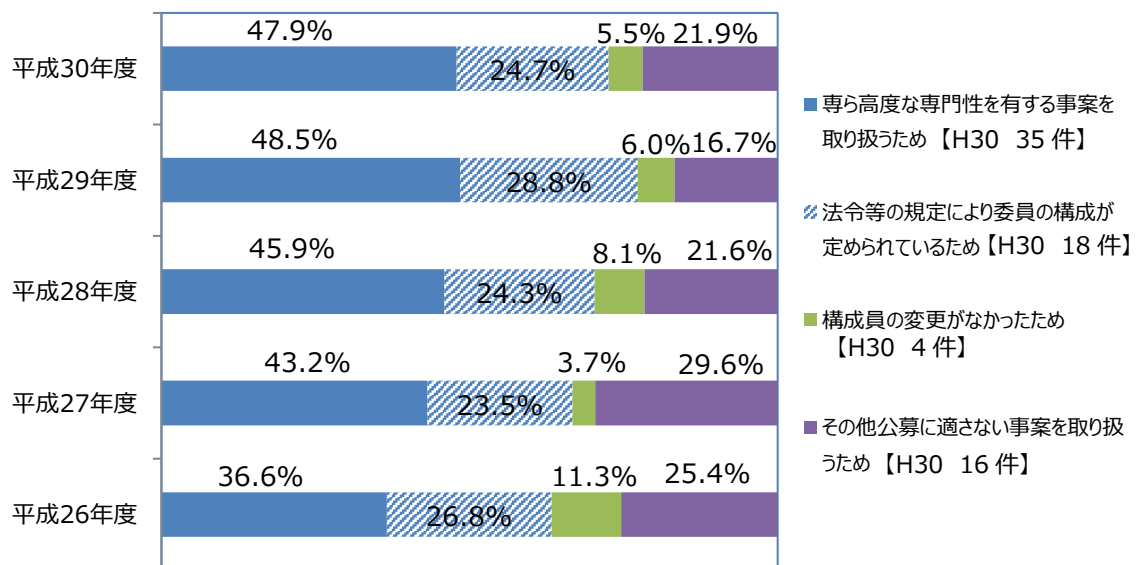


図5 委員の公募を実施しなかった理由の割合【附属機関数】

(2) 委員の年齢構成

委員の年齢構成は 30歳代以下が 4.4%、40歳から50歳代が 43.7%、60歳代以上が 51.9% でした。

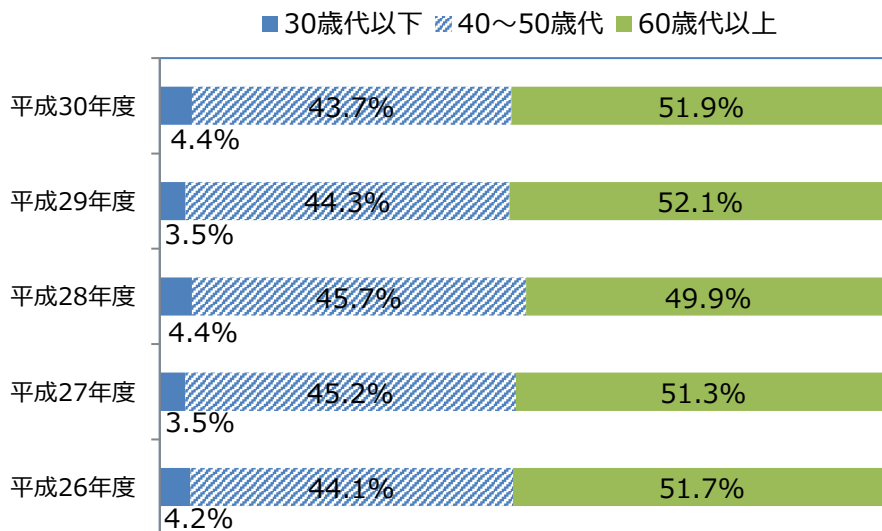


図6 委員の年齢構成

※委員の年齢構成を把握している機関のみで算出したもの

(3) 委員の男女比率

全委員に対する比率は、男性が 71.9%、女性が 28.1%でした。

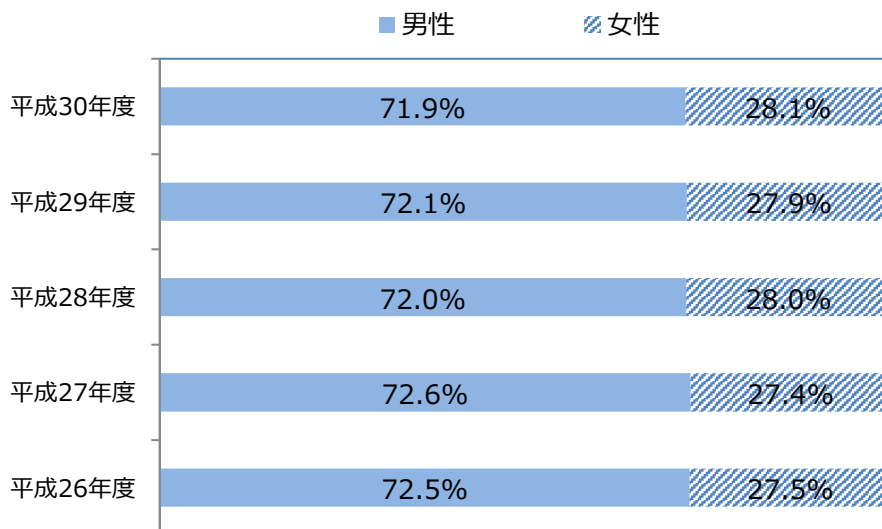


図7 委員の男女比率

(4) 委員の兼職状況

団体推薦を実施した附属機関は50機関で、全体の62.5%でした。

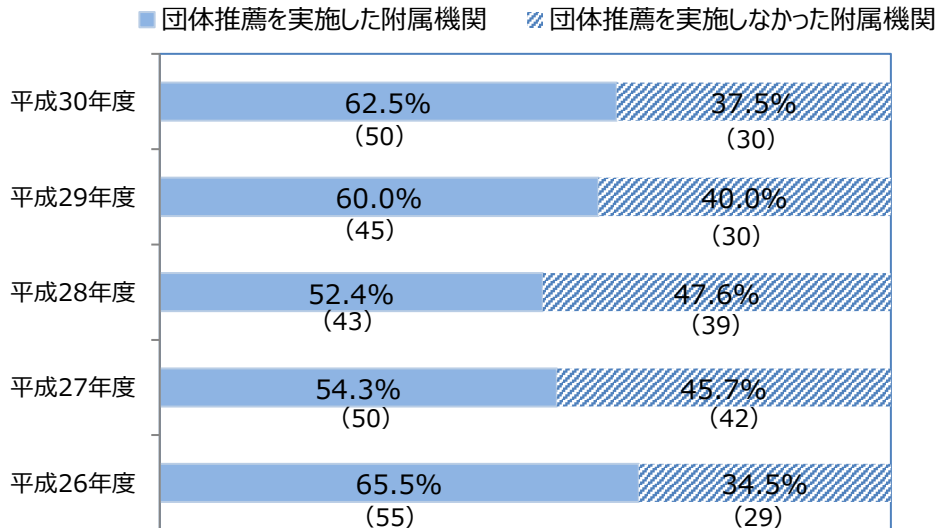


図8 団体推薦を実施する附属機関の割合

※ () 数は附属機関数

(5) 委員の在期数

在期数3期以上の委員を含んで構成される附属機関は59機関で全体の73.7%でした。在期数3期以上の委員は512人で、全委員数の39.0% (昨年度 38.2%) を占めています。

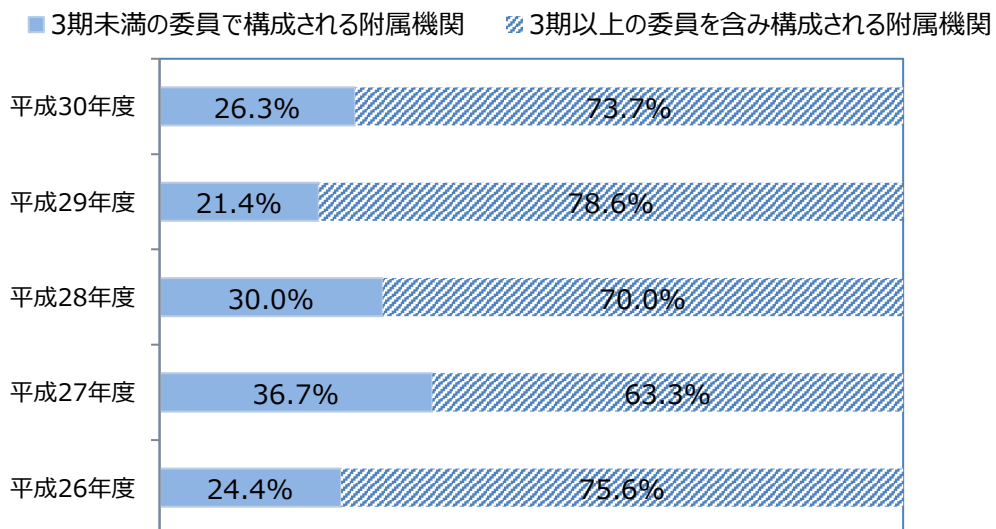


図9 委員の在期数【附属機関数】

※全委員が充て職である附属機関を除き算出したもの

5 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策

協働のまちづくりを推進するためには、まちづくりのパートナーである市民及び市民活動団体に対する支援策が必要となります。ここでは、市民活動に関する情報提供、市民活動団体同士のネットワーク化の促進、補助金等の助成制度をはじめとする市民活動を促進するための環境整備として実施された施策を集計しました。

表9 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策数の推移

項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
情報の収集及び提供	5	8	8	13	10
活動の場の提供	24	31	30	22	25
ネットワーク化の促進	4	5	5	6	6
助成制度の実施	77	74	70	66	61
その他	5	6	6	6	6
合計	115	124	119	113	108

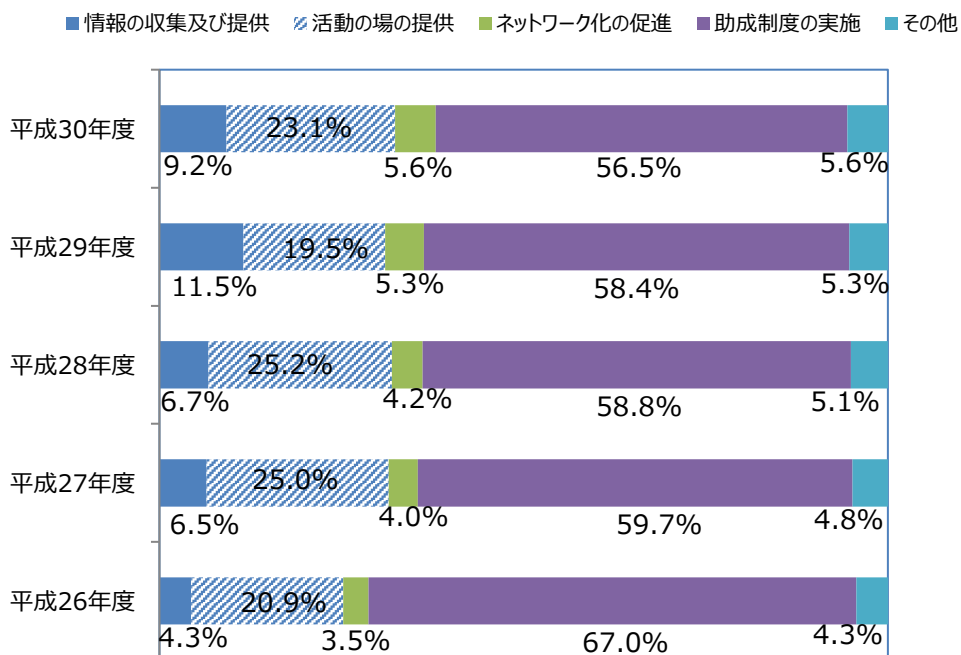


図10 市民活動を促進するための環境整備として実施された施策の割合の推移

施策事例 情報の収集及び提供 …… 10 施策

< 事 例 >

市民活動ポスター展

しものせき市民活動センターが主催し、市民活動ポスター展を市内7箇所において開催しました。ポスター展では、参加団体（24団体）が作成したA2サイズ（594mm×420mm）のポスターを掲示し、市民活動団体の活動内容や活動方針などを紹介しました。

展示期間 平成30年10月28日（日）から平成30年12月14日（金）まで
 展示施設 しものせき市民活動センター【10/28～11/2】 下関市役所【11/2～11/9】
 豊浦総合支所【11/9～11/16】 豊北総合支所【11/16～11/22】
 豊田総合支所【11/22～11/29】 菊川総合支所【11/29～12/7】
 生涯学習プラザ ドリームシップ【12/7～12/14】

参加団体（ポスター展当時の名称）[50音順]

あいれんか（愛憐花）	アムネスティ下関グループ	NPO法人下関深坂さくら友の会
Kananowa	賀茂島の景観を守る会	きくがわ花守隊
菊舎顕彰会	北高夢ロード実行委員会	くすの木友の会
劇団新波	木屋川をきれいにする会	下関シェアリングネイチャーの会
下関友の会	特定NPO法人幸せな家庭環境をつくる会山口支部	楢原ゆうあい会
日本童謡の会下関支部	permanent reality	馬関奇兵隊
ふくの森の会	「本が好きな人への情報」を発信するグループ	盲導犬ボランティア・エールの会
山口肝友会	山口県杖術協会	朗読ハウスもがも家



豊北総合支所 1階ロビー



ポスター展のポスターは、しものせき市民活動センターのポスタープリンターで作成しました。



【市民部 まちづくり政策課】

電話 083-231-1830（直通） Fax 083-231-1809

E-mail skshimin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 市民活動の場の提供 …… 25 施策

< 事 例 >

ボランティア室の設置

動物愛護管理センターでは、動物愛護推進員の協議の場を提供しております。
譲渡前講習会の終了後等、推進員の情報交換や、情報共有の場に使用されています。



下関市動物愛護推進員とは



動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律105号。以下「法」という。）第38条第1項の規定に基づき、地域における犬、猫等の動物の愛護の推進を図るため、市長から委嘱を受けた方です。

推進員は、動物の適正飼養の普及や動物愛護精神の高揚を図り、人と動物が共生する社会づくりを推進するため、犬、猫等の動物の愛護と適正な飼養の重要性について市民に理解を深めるため、市民に対し、犬、猫等の動物がみだりに繁殖することを防止するための必要な助言や、動物の譲渡のあっせん等の支援活動を行っています。

【保健部 動物愛護管理センター】

電話 083-263-1125（直通） Fax 083-256-6950

E-mail hkdoubut@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 市民活動のネットワーク化の促進 …… 6 施策

< 事例 >

“ちゃいどねっと”による地域の子育て力の向上（子育てサークルネットワーク推進事業）

“ちゃいどねっと”は、「市内に多くの子育て支援団体がありながら、横のつながりがない。情報交換の場がほしい。」との声を受けて、平成19年6月より市に事務局を置いて運営しています。“ちゃいどねっと”を通じて、子育て支援団体同士の連携を図るとともに、官民協働をすることにより下関における子育て支援団体の発展と地域における子育て支援活動を推進しています。

1. “ちゃいどねっと”総会及び事例発表・情報交換会

総会に続いて開催された事例発表・情報交換会において、子どもの生活実態調査の結果等をふまえて、グループ協議が行われ、各グループから発表がありました。子どもの貧困にかかる問題点を深く考えたり、子ども達のためにできることは、どんなことがあるのか、各グループとも活発な討論をして、多くのご意見を発表していただきました。

日 時 平成30年6月29日（金）午前10時～12時
 場 所 カラトピア 5階ホール
 内 容 「子ども達の為に私たちができる事～子どもの貧困を考える～」
 参加者数 30名



2. “ちゃいどねっと”研修会

子育て支援施設の見学が行われました。会員の方々から、各施設の業務や活動が認識でき、とてもよい企画だったという感想をいただいています。

「～行ったことある？下関の子育て支援施設へ行ってみよう！～」

日 時 平成31年3月4日（月）9時10分～16時30分
 見学場所 中央こども園 こども発達センター ふくふくこども館 こどもの宙 15時15分終了
 希望者のみ「みなとあひるっこ」を見学 16時30分終了
 参加者数 25名 17名

【こども未来部 子育て政策課】

電話 083-231-1353（直通） Fax 083-231-1394

E-mail kmkosoda@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 市民活動を側面的に支援する助成制度の実施 …… 61 施策

< 事例 >

高齢者健康づくり活動住民グループ助成事業

高齢者が要介護状態になることの予防及び地域コミュニティにおける高齢者の支援体制の整備を図ることを目的とし、高齢者の健康づくりに資すると認められる活動を自主的に行う住民グループに対し、補助金を交付しています。

平成 30 年度補助金交付実績 106 団体

【補助対象団体】

下関市内に居住する 65 歳以上の高齢者 10 人以上が参加し、高齢者の運動機能の維持及び向上を目的とする体操教室を自主的に開催する住民グループ（法人格を有しないものに限る）

【対象となる活動】

原則として 1 か月に 1 回以上、当該年度を通じて開催される体操教室

また、その活動の一環として体操教室と同じ年度に開催される研修会又は講演会

【補助金の額】

補助対象経費（外部講師謝礼、会場使用料、会場冷暖房費）の 8 割の額と、実施回数に応じた上限額（次表参照）を比較し、いずれか少ない額が上限額

ただし、千円未満の端数があるときは切捨てとし、補助対象経費が 5 万円未満の場合は対象外

実施回数	上限額
12 回以上 18 回未満	96,000 円
18 回以上 24 回未満	144,000 円
24 回以上 30 回未満	192,000 円
30 回以上 36 回未満	204,000 円
36 回以上 42 回未満	216,000 円
42 回以上 48 回未満	228,000 円
48 回以上	240,000 円



【福祉部 長寿支援課】

電話 083-231-1340（直通） Fax 083-231-1948

E-mail fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

6 市民活動団体と協働を行った施策及び協働の方法

協働のまちづくりを推進するためには、市民と行政それぞれが、その特性や役割を認識し、まちづくりを進めていくことが重要です。ここでは、市民と市民のパートナーシップ、市民活動団体との協働を進めるために行った施策を集計しました。

表 10 市民活動団体と協働を行った施策数の推移

項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
市民活動団体へ指定管理や委託を行った施策（契約を締結するもの）	27	27	28	27	29
市民活動団体等と協力して行った施策（共催・事業協力）	32	35	37	34	37
合計	59	62	65	61	66

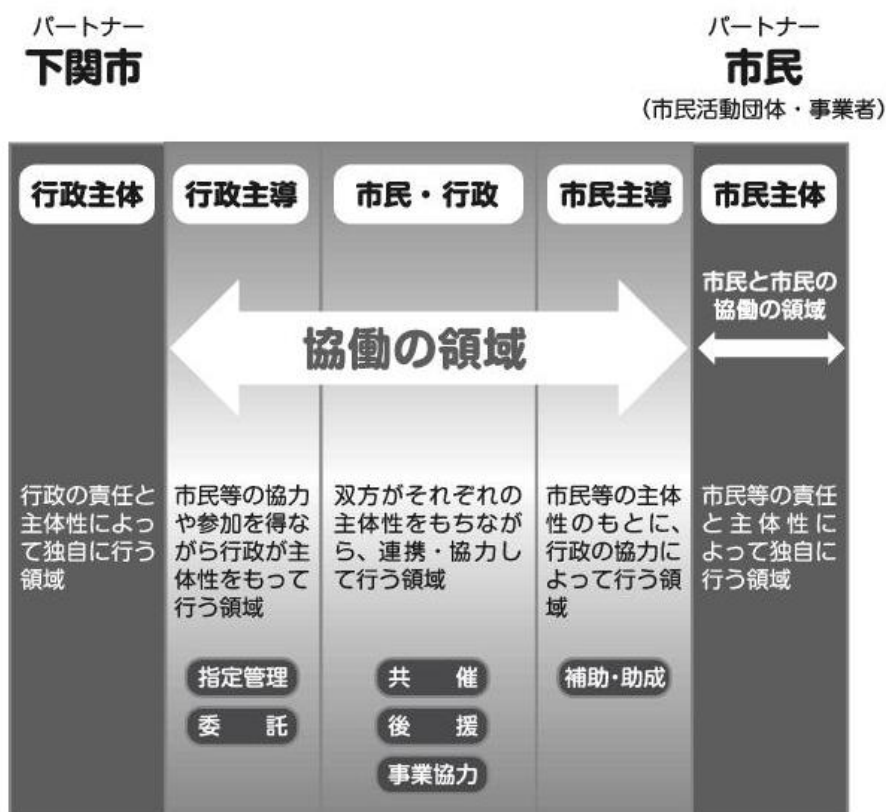


図 11 協働の領域

『市民協働参画パートナーシップハンドブック 平成 29 年 3 月改訂版』より

◆施策事例 市民活動団体へ指定管理や委託を行った施策 … 29施策

<事例>

いしん150構想関連業務

明治維新150年目にあたる2018年までの20年間の市民の夢をとりまとめた「いしん150構想」に関連し、志士の杜推進実行委員会と維新発祥の地・下関を広く国内外にアピールする普及啓発活動を行いました。

○「志士の杜」の命名

市立歴史博物館を「志士の杜」と命名し、プレートを設置



○維新関連書籍の製作・配布

「維新史跡めぐりガイドブック」製作
「維新史跡探訪」製作
市内の学校、図書館等へ配布



○維新史跡めぐりの開催 ～京都第二弾～

平成30年7月16日(月)～17日(火)
寺田屋、池田屋跡地ほか



【総合政策部 企画課】

電話 083-231-1480 (直通) Fax 083-232-9569

E-mail sskikaku@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

施策事例 市民活動団体等と協力して行った施策 …… 37 施策

< 事 例 >

おはなしのじかん（下関市立図書館各館及び豊北図書室におけるおはなし会実施事業）

下関市立図書館各館及び豊北図書室では、児童サービスの一環としておはなし会を開いています。主催は各図書館及び豊北図書室ではありますが、地域の読み聞かせボランティアの皆さんにもスタッフとしてご協力いただいています。

ボランティアの皆さんと共に実施することにより、図書館員にとっても情報交流や技術向上にも役立っています。

平成 31 年 1 月には、おはなしのじかんにご協力いただいている団体を含め、下関市内で子どもの読書活動に支援くださっている団体を紹介する展示を行いました。

下関市立図書館おはなしのじかん協力団体名（あいうえお順）

赤い三輪車

あかね会

おとぎの部屋

おはなしサークル あ・い・う・え・お

おはなしのはら（中央）

おはなしのはら（長府）

おはなしの森文庫

カナダ友好協会下関支部

ポプラの会

～mother hand's～このゆびとまれ

三つのりんご

めんどりかあさん



子どもの読書活動支援団体紹介パネル展示の様子

【教育部 図書館政策課】

電話 083-233-1172（直通） Fax 083-233-1173

E-mail kit-shim@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

7 市内の市民活動の状況に関する事項

しものせき市民活動センターは、平成19年から行政と市民活動団体が連携したまちづくりの推進と、市民活動団体の活動支援を行っています。

平成30年度におけるしものせき市民活動センターの、会議室等利用実績は 1,017 件、利用者数は 25,098 人でした。

下関市市民活動団体登録要綱に基づく団体登録シートの提出団体数は、平成30年度は 236 団体とであり、その活動分野では、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」（53 団体）と「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」（53 団体）が同数で最も多く、次いで「まちづくりの推進を図る活動」（34 団体）、「子どもの健全育成を図る活動」（32 団体）の割合が大きくなっています。

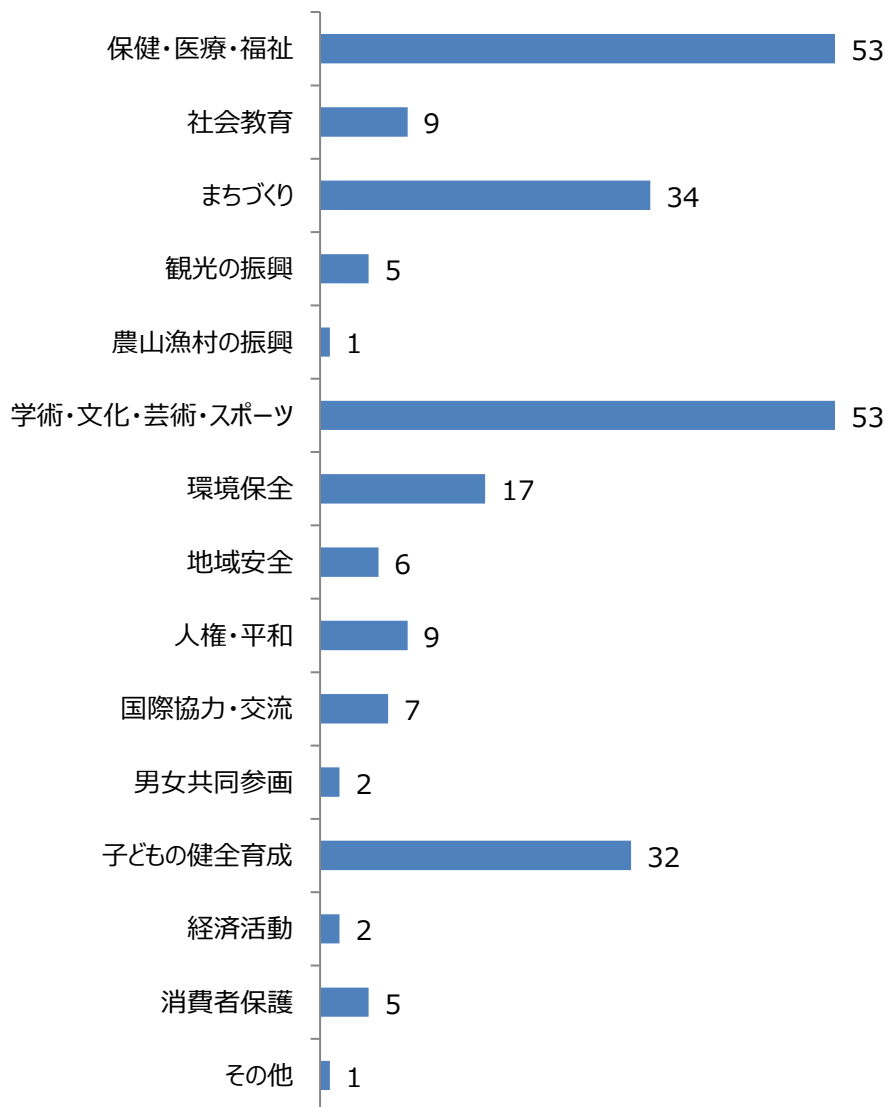


図 12 下関市市民活動団体登録要綱に基づく団体登録シート提出団体数とその活動分野

施策事例 市内の市民活動の状況に関する事項（しものせき市民活動センターの状況）

< 事 例 >

わくわく大作戦

しものせき市民活動センターを市民の皆さんにより認知していただくため、平成30年7月22日（日）に、市内で活動する市民活動団体との協働により、わくわく大作戦を開催しました。各団体の指導のもと404人の子ども達が熱心に作戦（工作や教室）に参加しました。

協力団体（50音順）

あいネパールの会、生野あそぼう会、特定非営利活動法人環境みらい下関、下関マジッククラブ、下関中等教育学校、知的障がい者との共生グループ「grant」、出会いの森ファンクラブ、野の花工房、ピースオブマインドはまゆう、「結いの会」（梅ヶ峠キャンパス利用者協議会）



当日作成した（万華鏡、小物入れ、小枝クラブ）

登録団体交流会

しものせき市民活動センター登録団体の交流や課題解決などを目的とし、コーディネーターに伊藤彰さん（やまぐち県民活動支援センター長）をお迎えし、平成30年12月6日（木）に、登録団体交流会を開催しました。10団体が参加し、団体の紹介（団体の抱える課題や得意技も含め発表）や、各グループに分かれてワークショップを行い、持ち寄った課題について意見を出し合いました。課題解決に向けてのヒントが得られた団体もあったようです。



登録団体交流会の様子

【市民部 まちづくり政策課】

電話 083-231-1830（直通） Fax 083-231-1809

E-mail skshimin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

しものせき市民活動センター
市民活動取材票
(平成 30 年度)

しものせき市民活動センター 市民活動取材票 目次

取材日	団体名	ページ
H30.5.11	菊舎顕彰会	1
H30.5.26	北高夢ロード実行委員会	2
H30.6.10	山口県杖術協会	3
H30.6.15	輪関塾	4
H30.7.13	和風コラボ響&朗読ハウスもがも家	5
H30.7.16	晋作連	6
H30.8.15	下関空襲・終戦展実行委員会	7
H30.9.29	まちづくりグループ「発揮会」	8
H30.10.21	林伊佐緒偲ぶ会	9
H30.10.28	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」	10
H30.11.8	下関点訳しるべの会	11
H30.11.23	下関リーディングの会	12
H30.11.25	下関トーストマスターズクラブ	13
H30.11.25	下関市中途失聴・難聴者協会	14
H30.12.15	NPO法人JACFA下関支部・カナダ友好協会	15
H30.12.22	COSMOS（児童英語研究会）	16
H31.2.19	高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）	17
H31.2.20	玄米ニギニギダンベル体操	18
H31.2.27	NPO法人おれんじの会	19
H31.3.23	はあとふりい下関	20

取材先	菊舎顕彰会		
企画名	「もっと知りたい菊舎の世界」 - 作品にみる菊舎の心 -		
備考			
取材日	平成30年(2018年)5月11日(金) [11:00 ~ : 12:00]	取材地	やまぎん史料館

レポート

菊舎顕彰会は、菊舎のすばらしいさと郷土の文化に関心をもち、受け継ぎ育ててゆこうと昭和31年に結成された文化団体です。俳句指導、講座、講演会、演奏会、研究、調査、研修会等々の活動をされています。

田上菊舎(本名 道)は宝暦3年(1753)長州藩士・田上由永の長女として長門国田耕村(現下関市豊北町田耕)に生まれました。16歳で嫁ぎ、24歳で未亡人となり、「長州の女芭蕉」と称されるように、全国俳諧修行の旅をした女流文人です。

今回5月11日~13日やまぎん資料館にて「もっと知りたい菊舎の世界」と題し菊舎顕彰会に寄贈された作品の展示、展示説明、顕彰会代表岡氏による「菊舎研究の先達 上野先生、内山先生との思い出」の講演、研究のテーマを「田上菊舎の生き方」とされているレベッカ・コ-ルベット先生(南カリフォルニア大学日本史研究家)との対談、菊舎検定等盛りだくさんでとても興味深い企画を開催されました。初日の取材日には12~3名の方が岡氏による作品を見ながらの説明に熱心に耳を傾けていました。菊舎は俳諧・和歌・琴曲・書・画・茶事など諸芸に通じた才女で、果敢に挑戦し、快活洒脱で機知に富んだ菊舎の生き様が伝わり、多くの方が菊舎に心惹かれることを感じると同時に岡氏の情熱も伝わってきました。

下関からこんな素敵な女性が生まれていたなんて、遠くアメリカにまで菊舎を研究している方がいるなんて、驚きと感動の時間でした。そして下関の宝物のような菊舎を世に広く顕彰し活動をされている菊舎顕彰会の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいになり今後の皆様の活躍にエールを送りたいと思いました。

状況写真



菊舎の作品



レベッカ氏の記事



代表の岡氏

菊舎旅道中の装い



菊舎に関する書籍



七絃琴:菊舎は小型のものを
持ち、旅をされたそうです



取材先	北高夢ロード実行委員会		
企画名備考	おしゃべりなJoomon人 ~私の縄文幻夢譚~		
取材日	平成30年(2018年)5月26日(土) [9:30~15:00]	取材地	ギャラリー 夢ロード

レポート

高齢化の進む豊北町滝部地区。山口県立下関北高等学校から風に乗って聞こえてくる生徒たちの声や元気な挨拶に、OBや地域のみなさんは心地よさを感じていました。生徒のために何か出来ることはないか、一生懸命考えていました。ある日、夕立の中、濡れて帰る生徒2人にOBの方が傘を持たせたところ、翌朝、お礼のメモと傘がありました。滝部駅からの通学路は約1.8km。通学傘支援を決めたのがこの会の始まりです。知人や地元、企業からの支援など、現在500本集り、通学路である「夢ロード」の商店数が所に置き傘が設置されました。その後、商店を利用し、学生たちへの貸し出し本「アートの本棚」、図書室に「先輩の本棚」の開設、音楽会やワークショップ、講演会など行っています。

今年度は、5月22日から6月3日まで『ギャラリー夢ロード』で第1回展、藤田莞爾氏の作品展が行われました。藤田氏の作品は、クレヨン・水彩・墨・貼り絵等を用いた複合的な技法「離散集合」で、1枚の作品の中に鉛筆・水彩・貼り絵などが描かれています。

「あと9分～」と数人の生徒が駆け抜けていく中、一年生の女子生徒が立ち寄ってくれました。「話は聞いていたけど、行くのは初めて。」と、一緒にアートの本棚にも行きました。会のみなさんは通っていく生徒たちに必ず、優しく何か声かけをしており、「可愛くて可愛くて仕方ないんだな、彼らのために何か自分はしてあげたい。」という思いが、取材の短い時間の中でも感じられました。これから夏にかけて、浜井祭語り合いや生徒の写真展、ギャラリー夢ロードの第2回展、異文化交流などと続いていきます。

昔賑わっていた時代は去って、殆んどシャッターが下りた通りになった商店街も、今は夢ロードとして復活しています。＜北高の生徒のため＞との思いがどんどん通りを楽しんでいくことでしょう。



会員の方。(左)企画した波多野氏

状況写真



<アートの本棚>



ギャラリー 夢ロード



置き傘

取材先	山口県杖術協会		
企画名	平成30年度第1回 真傳無外流居合兵道会稽古会・審査会		
備考			
取材日	平成30年(2018年)6月10日(日) [13:00 ~ 15:00]	取材地	下関市民センター

レポート

山口県杖術協会は、平成27年に岩目地光之氏を代表として設立された団体です。目的は、明治時代まで隣県福岡黒田藩の御留武術であった、神道夢想流杖術を学び、保存を図る。また、武術における合理的な身体の使い方を研究し、練習によって身に付ける。神道夢想流を稽古し、演武会や講習会を開催したり、日本杖術協会加盟団体として競技会、錬成会への参加をしています。

今回は、市民センター屋内運動場において、「真傳無外流居合兵道会(山口県・福岡県支部)稽古会・審査会」が開催されました。岩目地光之一貫先生による開会の挨拶、司会者による本日の進行内容や注意事項の説明に続き、怪我の無いように準備体操です。どんな運動でも身体をほぐすという事が大事なのです。木刀や模擬刀(時には真剣)を使うのが常なので、特に身体の動きを機敏に出来る準備が必要なのです。その後先生による、刀礼の説明、基本刀法、納刀等の指導、形の指導が続きしました。

取材の時間が短く、残念ながら審査会は見れませんでした。しかし、場の雰囲気は気の張り詰めた凛としたもの、武士道精神に触れたかの様なひと時でした。

杖術は形武道ですので老若男女を問わず学び競うことができるうえ、当初必要なものは檜の丸木で出来た杖1本だけです。どなたでも気軽に始められます。健康増進のためにやるのも、武術として極めるのもいずれも本人次第です。

よろしければ、皆さんと一緒に武術を稽古してみませんか。お問い合わせください。

状況写真



取材先	輪関塾		
企画名	生前贈与のお話 ~ 賢い使い方を考える ~		
備考			
取材日	平成30年(2018年)6月15日(金) [19:00 ~ 20:00]	取材地	しものせき市民活動センター

レポート

輪関塾は、異業種間の交流を深め、よりよく生きるための知識を得て、各会員が会得した知識を利用及び還元することにより、下関市民が健やかに暮らせる地域社会づくり、地域福祉に寄与する「人の輪による地域貢献により、よりよい下関にしていくこと」を目的とした団体です。

近年の講座では、『誰でもわかる税金と社会保障講座』、『マイナンバーについて』、『優しく学ぶ会社創業時のポイント』、『心も身体もお財布も楽になる！プロが教える介護術』、『行政書士が話す注意したい相続』、『社会保険労務士の仕事を通してみた、雇用・社会保障の現状』、『パソコンを安全・快適に楽しもう』、『エンディングノートの基礎』など行われてきました。いずれも、専門職のプロが無料で講義をしています。質疑応答もあるので大変役立ち、参考になります。

そして今回の『生前贈与のお話』では、税理士の山崎氏による、賢く生前贈与をするための方法や注意点などの話がありました。生前贈与のメリットとして、贈る側は、感謝の気持ちを形にでき、受け取る側は、直接「ありがとう」と言えることだと言われました。

輪関塾は、不定期ですが、年に数回公開講座を開催しています。チラシなど見かけたら、参加してみたいかですか。情報収集として、知識を得るため等に役立ててください。今後も、専門家としての知識を市民に還元し、よりよい下関になる「力」を期待します。



取材先	和風コラボ響 & 朗読ハウスもがも家		
企画名	サロンコンサート		
備考			
取材日	平成30年(2018年)7月13日(金) [14:00~15:00]	取材地	グループホーム やすおかの里

レポート

和風コラボ響は音楽を通して、地域社会の音楽文化の向上、音楽文化の活性化、交流を深めることを目的として、ボランティア演奏を積極的におこなっている団体です。童謡、唱歌から懐かしの歌謡曲まで親しみやすい曲を和楽器やギター、キーボードや歌を通して演奏活動をしています。今回の演奏で217回目になるそうです。

朗読ハウスもがも家は朗読を通して、心身の健康維持、促進を目指し、教養を深め、地域文化の発展に貢献することを目的としています。地域施設でのボランティアもされており、和風コラボ響とのコラボは3回目らしいです。

和風コラボ響は季節にぴったりの「海」「茶摘み」をはじめ懐かしい曲「高校三年生」など全16曲を演奏されました。本格的な演奏と歌でグループホームの皆さんと一緒に歌い、手を振り、体を動かしてノリノリでした。あまり聞く機会のない尺八や三線(さんしん)の音色のすばらしさを改めて認識しました。また、ボーカルの澄んだ声もとても心地よかったです。曲ととの間の代表井原氏のコメントも場を和ませていました。グループの和気あいあいとしたとても良い関係も伝わってきました。

一方、朗読ハウスもがも家は「だってだってお婆さん」「ウナギのかぎ賃」を3人が衣装もきめて、コミカルにテンポよく朗読されました。お話の中に自然に引き込まれ、朗読の力を感じたひと時でした。

グループホームの皆様、今日はきっと素敵な時間を過ごされたに違いありません。2団体は様々な施設をボランティアで訪問されます。是非お声をかけてみてはどうでしょうか。音楽や朗読の不思議なパワーを感じた取材でした。

状況写真

- 平成30年7月16日(金)
グループホーム安楽の里 暑あられあいコンサート
- ① C 海(うみ) 3番
 - ② C 茶つみ 2番
 - ③ C 浪手集 2番
 - ④ C 霧の黒い出 井原 2番
 - ⑤ F みかんの花嫁くま 2番
 - ⑥ 朗読「だってだってのお婆さん」 田丸 義徳
 - ⑦ C 葉い山歌
 - ⑧ C 高校三年生は行く
 - ⑨ C 高校三年生
 - ⑩ C あの丘を越えて
 - ⑪ C 鐘の音
 - ⑫ C おはやし
 - ⑬ 朗読「ウナギのかぎ賃」 田丸 義徳
 - ⑭ C 花〜すべての人の心に花を〜
 - ⑮ C わらびがみ(童謡)
 - ⑯ C 川の流れるように 井原
- アンコール曲「上を向いて歩こう」



プログラムと歌詞



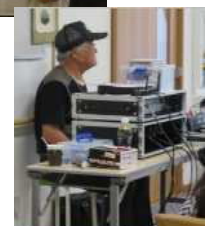
4人の息合った演奏と歌



アンコールにも応えみんなノリノリ!



3人のコミカルな朗読



取材先	晋作連		
企画名	第三回 晋作文化祭		
備考			
取材日	平成30年(2018年)7月16日(月・祝) [13:00 ~ 17:00]	取材地	下関市民会館 中ホール

レポート

晋作連は、幕末維新で活躍した高杉晋作の業績を顕彰し、下関との関係を学び、歴史の町下関の価値を確認するとともに、次世代に継承することを目的に活動しています。

三宅代表は、「今年は明治維新150年ということで、下関はどういう街なのか、どういう意味で歴史の町といわれているか考えてみたい」と話され、『古事記・日本書紀にも記述のある すごい歴史の街・下関を維新150年の今年、あらたてめて振り返る!』をサブテーマに晋作文化祭は行われました。

下関観光ガイドの会元会長の平松資朗氏の講演では、まず、吉田松陰先生の『祖国日本の独立不羈を護る』という志と精神の話や奇兵隊結成などの話がありました。また、下関は歴史の宝庫であるといわれ、「源平壇ノ浦合戦」「第十四代仲哀天皇と神功皇后」「長門鑄銭所跡」「下関条約」「乃木希典将軍」「巖流島の戦い」「世界初の海底国道 関門トンネル」などを紹介し、関門海峡は日本の武家政治の始まりと終わりの舞台であると話されました。

夏休み自由研究用に親子無料招待をした子どもたちに、平松氏は、郷土の大先輩 高杉晋作の志を見習ってください。自分の事だけ考えるのではなく、公のために役に立つ人となるよう努めてください。それが一番大先輩が喜ぶことです、と話されました。他に、正真流吟剣詩舞道会による剣舞、関門地域で活躍している2人の落語がありました。

会では他に、毎年「高杉晋作ウオーク」を開催しています。高杉晋作と下関の歴史を学びながらのウオークです。下関に住んでいても、下関の歴史について知らないことが沢山あります。このような機会を利用して学び考えてみてはいかがでしょうか。

状況写真



取材先	下関空襲・終戦展実行委員会		
企画名	第14回下関空襲・終戦展 『戦時下の暮らし・パネル展』		
備考	併設 『懐かしの昭和マッチコレクション展』		
取材日	平成30年(2018年)8月15日(水) [10:45~12:00]	取材地	にししんギャラリー

レポート

下関空襲・終戦展実行委員会は「忘れてはいけないことがある。どうしても伝えたいことがある。」を会の理念とし、かつての戦争の歴史と、その時代を生きた市民の歴史を後世へ語り継ぐことを目的として活動されています。団体名の由来は、終戦60周年(平成17年)の夏開催の企画展テーマ「下関空襲・終戦展」に実行委員会を後づけしたもので、その翌年より毎回テーマをかえての企画展開と、戦時下を生きた人々の手記や談話をまとめた小冊子を開催日同時刊行をと心掛けている団体です。

第14回を迎えた今年のテーマは「戦時下の暮らし・パネル展」。一押しの展示物は、菊川町民族資料収集保存委員会提供の出征兵士を送る日の丸の小旗です。当時、対岸の門司港へ出征兵士を南方へ送る輸送船が寄港すると連絡を受けた母親たちは、ひと目でも我が子の姿をと岸壁に馳せ参じ、小旗を振りながら船上を探すも、大勢の兵士たちの中から我が子を見つけ出すことは容易ではありませんでした。それでも必死になって小旗を振り続ける光景があったそうです。

当時を語ってくださる方々が減少している今、私たちが戦争について知る機会が少なくなりました。展示物を拝見していると「戦争そのものが希薄になっていく今だからこそ、後世へと語り継ぐ必然性がある」という実行委員会の思いが伝わってきます！

今年の企画展会場には、若い母子連れや市内の大学生たちが何度も足を運んだそうです。会の皆さんは大変喜んでおられました。

会場は、どこの「平和史料館!?!」と思わせるような、当時の暮らしや風景を紹介する数々のパネルや、空襲時に落とされた焼夷弾の遺物や遺品も展示されていて、市民主体でこんなに素晴らしい企画展ができるんだ!と、驚きと尊敬の気持ちで一杯になりました。

毎回テーマを変えることは難しいのではとお尋ねすると、なんと企画展開催中に構想が浮かび、次回のテーマを決められるそうです。

最後に将来の活動目標を伺うと、「下関に平和資料館のようなものを作りたい。市民による市民のための資料館を!」と、井手代表の頼もしい言葉がかえってきました。会の理念に寄りそって、企画展開をさせてきた皆さんの強い絆と実行力さえあれば資料館も夢じゃないと思います。

恒久平和を願うとともに、実行委員会のご活躍とご発展をお祈りいたします。

状況写真



数々のパネルで戦時下の暮らしを紹介



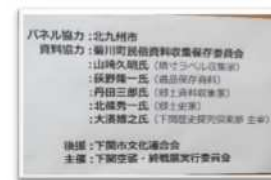
当時を振り返る父娘



下関に落とされた焼夷弾



出征兵士を送る小旗



パネル協力:北九州市
資料協力:菊川町民族資料収集保存委員会
山崎久雄氏(戦時下パネル展監修)
森野隆一氏(物品保存協力)
内田三郎氏(戦時資料収集家)
北橋勇一氏(戦時資料家)
大濱博之氏(下関歴史資料館実行委員 主催)
後援:下関市文化連合会
主催:下関空襲・終戦展実行委員会



井手代表(前列左)と会のみなさま



▲ マッチコレクション展も大盛況でした



御大典記念マッチラベル

取材先	まちづくりグループ「発揮会」		
企画名	秋の絵画展 川棚の杜 小さな美術館		
備考	まちづくりグループ発揮会創立30周年記念事業		
取材日	平成30年(2018年)9月29日(土) [13:30~15:00]	取材地	川棚の杜 コルトーホール

レポート

まちづくりグループ「発揮会」は、地域に生きる仲間と手を携え、豊浦町が本来持っている歴史・文化・自然等の固有資源の魅力を引き出し、その活動を通して自分たちの人生を充実させるとともに地域社会の発展のために寄与することを目的とし、観光や文化芸術の振興、環境の保全、福祉の増進等の活動をされています。

設立30周年の節目を迎えた記念事業として、第1部「高齢者の生きがいの創出と若者が定住できる魅力あるまちづくり」をテーマにしたシンポジウム、今回取材した第2部「川棚の杜 小さな美術館」と題し絵画展が開催されました。会場のコルトーホールには平山郁夫、藤田嗣治、ピカソ、シャガールなど国内外の一流作家のリトグラフなどの作品、そしてイギリスからジャネット・ルール氏を招き彼女の印象派を思わせる作品とともに約200点展示されました。同時に下関市で活動をされている2名のアーティストの作品も展示されていました。

コルトーホールは素晴らしい美術館へと変身し、あいにくの雨にもかかわらず、たくさんの来場者を温かく迎え、アートの世界へと招いてくれました。丁度、会期中毎日開催されたジャネット氏のサイン会が始まりました。彼女の明るく優しい人柄を作品に重ね合わせ感じました。作品の売り上げの一部は「川棚クスの森」の養生支援金、子ども基金として寄付されるそうです。

30周年！すご～い！1988年に設立され、当初は会員数4名で「自己啓発クラブ（発揮会）」として発足されたそうです。これまで数々の活動をされ、コルトーホールの建設等、地元には様々な形で貢献された会員の方のエネルギーと努力を感じながら会場を後にしました。

状況写真



まちづくりグループ発揮会30年の歩み



ジャネット・ルール氏サイン会

取材先	林伊佐緒偲ぶ会		
企画名	林伊佐緒 ふるさとコンサート		
備考			
取材日	平成30年(2018年)10月21日(日) [14:00 ~ 15:45]	取材地	下関市立長府東公民館

レポ
ー
ト

林伊佐緒偲ぶ会は、日本歌謡界に金字塔を打ち立てた、下関出身、林伊佐緒の功績や作品を顕彰し次世代へ語り継ぐことを目的とした団体です。活動は、彼の遺品管理、各地での遺品展の開催、語る会やレコードコンサートの開催、老人施設や社会福祉施設への慰問などです。

オープニングはデビュー曲『旅の雨』。つづいて、作曲家としての代表曲『出征兵士を送る歌』『高原の宿』『長崎の女』、歌手としての代表曲『若しも月給が上がったら』が流れると、会場のムードは最高潮！歌詞が掲載されたプログラムを片手に観衆は口ずさみ、代表のリードでいつの間にか合唱となりました。

また、当日は東京に在住の長男・真佐男さんをお招きし、山根代表と対談。当時を振り返りながら、父・林伊佐緒、シンガーソングライター・林伊佐緒を息子の目線で語っていただきました。ファンにとって、大変貴重な話だったのではないのでしょうか。

レコードと映像でよみがえった林伊佐緒の世界を堪能したあとは、ふるさと王喜小学校児童による、「王喜よさこい」の演舞で元気をもらい、「大正琴アンサンブルあかね」の演奏で癒され、内容盛りだくさんのステージを楽しみました。

今日のコンサートは、下関の大スター林伊佐緒の偉大さと、ふるさと下関の魅力を再認識した一日でした。



取材先	下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」		
企画名	葛山 司 氏 講演会 「口の中に見られるトラブルと効果的な口腔ケアの方法」		
備考			
取材日	平成30年(2018年)10月28日(日) [10:30~12:00]	取材地	しものせき市民活動センター 大会議室

レポート

下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」は、会員間の交流と親睦を通して、介護等についての意見及び情報の交換をし、認知症の人とその家族の生活支援をするとともに、地域社会に認知症を正しく理解して頂き、日常生活の継続の維持をすることを目的として、活動をされています。

「キャッチボールの会」では、月に3回、家族会や相談会を開催しています。高齢者の方から、住み慣れた家で過ごしたいが家族に迷惑をかけないよう施設に入所した方がよいのだろうか。また、親が認知症と診断された等、不安の声を多く耳にします。そんな時、自由に参加できる会です。

今回の講演は、下関市後田町にあるクズヤマ歯科の葛山 司先生が講師でした。テーマは、「高齢者や認知症の方の口腔ケアについて」でした。

最近、テレビで認知症を取り上げた番組を 各局が様々な角度から取り上げて、多数放映されていますが、まさに今一番話題性があり身近に迫っているテーマでした。

講演は、認知症！まずは歯科へ お家でできる認知症の口腔ケア 認知症と食、の3タイトルの映像に具体的な話を織り交ぜながら進められました。

特に、「食べる」事からの話なので、とても身につまされ、現在認知症の方やそのご家族の方々に対してだけでなく、これから認知症が迫り来るであろう方々にも、非常に参考となりました。

講演会などの開催は、とても大変な事ですが、一人でも多くの人々の生活支援に繋がる活動が益々発展されることを 心からお祈りしております。

状況写真



講師: 葛山 司 先生



映像を交えて講話



講師紹介

テーマ：認知症患者の口腔ケア



講話風景



熱心な質疑、続々



高玉 多美子 代表

取材先	下関点訳しるべの会		
企画名	平成30年度 点訳講習会（入門）		
備考	赤い羽根共同募金助成事業		
取材日	平成30年(2018年)11月8日(木) [13:30~15:30]	取材地	下関市社会福祉センター

レポ
ー
ト

下関点訳しるべの会は、点訳図書の作成を通して視覚障がい者への情報提供や交流等のボランティア活動により、広く障がい者に対する理解を深めることを目的とした団体です。

本日は、活動の一つである点訳講習会(入門)最終回で、パソコン点訳を行いました。パソコン点訳の最大の特徴は、文章の編集が容易にできることです。今回は愛甲会長が講師で、映像を使った講義と、会員によるマンツーマン指導だったので、初心者でも取り組みやすかったのではないのでしょうか。

また、最終回ということで講座終了後、閉講式が行われました。受講者一人一人に修了証書が愛甲会長より手渡されました。11名の受講者には男性3名、ご夫婦での参加もありました。年代も40代から70代と幅広い年齢層でした。

毎年開催される点訳講習会、3年前までは社会福祉協議会主催でしたが、現在は下関点訳しるべの会が主催です。したがって講師は、毎回会員が交代で担当されています。講座修了がきっかけで会員になる方もおられて、少しずつ会員が増えていらっしゃるそうです。これも愛甲会長をはじめ、会員の皆様が地道に活動を続けてこられた成果であり、大変素晴らしいことだと思います。

下関点訳しるべの会は、毎週木曜日午後1時から下関市社会福祉センターで例会を開催しています。点字に興味のある方、視覚障がい者への理解を深めボランティア活動を始めたい方、是非参加されてみてはいかがでしょうか。



取材先	下関リーディングの会		
企画名	下関ワークショップまつり		
備考	平成30年度下関市市民活動支援補助金交付事業		
取材日	平成30年(2018年)11月23日(金) [10:00 ~ 12:00]	取材地	下関市生涯学習プラザ

レポート

下関リーディングの会は、下関市民・下関市またその周辺地域に対して、演劇公演に関する事業を行い、地域の文化・芸術振興に関わる問題の改善や解決をはかり、演劇を通じて地域の人々の生活に文化・芸術が根付き、地域が活性化されることを目的としています。

今回は、「下関ワークショップまつり」と題して、ミュージカル・演劇・表現のワークショップを体験するイベントです。3講座あり、A講座は群読エチュード(講師:横山由和氏)、B講座は言葉と身体ワークショップ(講師:高野桂子氏)、C講座はコミュニケーションワークショップ(講師:中原和樹氏)、とそれぞれに担当講師が付いて説明を受けながら、わかりやすく体験出来るようになっていました。受講時間も午前と午後に分かれているため、全ての講座を受けることが出来るようになっていました。各講座とも7~8名の参加があり、遠くは北海道から参加された方もいました。

どの講座も元気の良い挨拶に続いて、講座内容の説明、準備体操等から本格的な指導へと移っていきます。身体全体での表現のワークショップ、ジェスチャーを交えてあらゆるシーンを演じて目的を伝える練習。私たちが普段何気なく話している事でも声に出さずに顔の表情だけで相手に何かを伝えるとしたら、かなり高い表現力が必要となるでしょう。また、顔の表情だけでなく、身振り手振りというポーズも付け加えれば少しは伝えられ易くなるようです。実践的な指導のもと、皆さんは自分のスキルアップに繋げようと真剣に学んでいました。今日学んだ事が今後活かされれば良いですね。

状況写真



講師の皆様



横山先生



高野先生



中原先生

実技指導風景



取材先	下関トーストマスターズクラブ		
企画名	創立5周年記念 オープンハウスミーティング		
備考			
取材日	平成30年(2018年)11月25日(日) [14:15 ~ 16:15]	取材地	唐戸市場 2階 大会議室

レポート

トーストマスターズクラブは、世界143カ国に16,400のクラブがあり、日本では187の国際認定クラブがあります。山口県では下関トーストマスターズクラブが唯一のクラブです。パブリック・スピーキング・即興スピーチ・1分間スピーチの練習を行うことにより、人前で効果的に話す技術とコミュニケーション能力を磨くクラブです。

下関トーストマスターズクラブ設立5周年記念イベントでは会員によるスピーチの後、「お題」に沿った即興スピーチが行われました。お題は「一番お気に入りの〇〇は？」で、〇〇のカードを引き、歌舞伎役者の市川猿之助さんの話やかつ丼、下関、映画など好きな理由を交えスピーチをしました。中でも、台湾出身の男性は「ほうじ茶」がお気に入りだそうで、意外でとても面白く聞けました。次に、絵を見てヒントから連想される魚を答えるクイズがありました。これには小学生のお子さんも参加して少し緊張しているようでしたが、考えながらきちんと答えていました。ちなみにミーティングは、すべて英語での会話です。日本語を話すことは全くありません。

最後に、英語落語家“喜餅(きもち)”さんによる落語『動物園』と『時そば』が披露されました。喜餅さんの落語は、身振り手振りで表情豊かに話され、英語がわからなくてもとても可笑しくあっという間の時間でした。

本日の参加者は会員も含め約50名。ゲストを温かく迎えるミーティングは、私自身感じたことがない特別なやさしい雰囲気の中で行われ、緊張を和らげてくれました。メンバーには、主婦・学生・退職者など幅広い年齢の方々がおられ、見学も大歓迎だそうです。興味のある方は、雰囲気を味わいに行かれてみませんか。



取材先	下関市中途失聴・難聴者協会		
企画名	第24回 全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in やまぐち		
備考	主催：一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会		
取材日	平成30年(2018年)11月25日(日) [13:30 ~ 15:00]	取材地	下関市生涯学習プラザ 海のホール

レポート

第24回 全国中途失聴者・難聴者福祉大会が、11月24日(土)～26日(月)の日程で、維新150年で盛り上がる山口県、下関市で開催されました。主管は、やまぐち実行委員会です。下関市中途失聴者・難聴者協会を含む山口県中途失聴・難聴者協会ほか3団体の皆さんから構成されています。

下関市中途失聴・難聴者協会は、市内の難聴者及び中途失聴者の社会的地位及び福祉の向上並びに相互の親睦と発展を目的として、活動をしている団体です。

この日程の内、25日(日)の午後、一般開放された講演会を取材しました。会場のロビーでは、午前中の全体会議が終了したばかりで、全難聴女性部の手作りバザーや堺市きこえ支援協会のコーナーや聴覚関連機器の企業8社が一堂に会して、聴覚障害者へ最新の情報を提供するブースなどが有り、非常に熱気と活気にあふれていました。今回の大会には、全国各地から約400人の方が参加されているそうです。

講演会は、下関市歴史博物館の町田一仁館長により「高杉晋作と坂本龍馬のまち・しものせき」の演題で行われました。要約筆記の大画面2機設置と手話通訳付きがとても印象的でした。

今回の取材で、全国に聞こえに不自由な方が1,900万人に及び、そのうち900万人ほどが何らかの支援、サポートを必要としていることや本当に様々な形の支援活動の存在等を知りました。各会の皆さまの活動が、着実に課題解決に繋がっていくことを願います。

状況写真



講演会風景



引き継ぎ式風景

やまぐち実行委員会の皆さん



次回開催地の実行委員会の皆さん



堺市きこえ支援協会の皆さん

『耳マーク』をご存知ですか？

聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知してもらい、コミュニケーション配慮などの理解を求める為に作られました。

取材先	NPO法人JACFA下関支部・カナダ友好協会		
企画名	英語による絵本の読み聞かせ		
備考			
取材日	平成30年(2018年)12月15日(土) [10:30~11:30]	取材地	下関市立中央図書館 4階 おはなしのへや

レポート

NPO法人JACFA下関支部・カナダ友好協会の主な活動の一つに、英語による絵本の読み聞かせがあります。毎回、季節の行事をテーマにした英語の絵本を使って、生の英語に触れ、英語圏の文化や季節感を味わいます。12月と言えばクリスマス！さて、今日はどんな絵本に出会えるのでしょうか？

オープニングは、クリスマスにちなんだイラストを見て英語で答えるクイズでした。クリスマスに関連する英単語は子どもたちは得意なようで、次々と元気よく答えてくれました。続いて『Head, Shoulders, Knees and Toes』の曲に合わせてリトミック。みんなノリノリでした。

さて、次はお待ちかねの絵本の読み聞かせです。サンタクロースやスノーマンが登場する絵本など合わせて5冊。英語の響きや日本の絵本にはない色彩を楽しみました。今回、梅光学院中・高校の生徒さんが読み聞かせに参加しました。大勢の子どもたちを目の前にしてとても緊張されたことと思いますが、優しく読み聞かせする姿に心温まりました。

後半も『クリスマスじゃんけん』ゲームやオリジナル絵本の『豆さぶろう』で盛り上がり、最後に素敵なクリスマスプレゼントが子供たちに手渡され、盛会のうちに終わりました。

本日の会場の下関市中央図書館は英語の絵本をたくさん所蔵しています。カナダ友好協会が毎年7月に、30~40冊英語の絵本を寄贈しているそうです。十数年続く活動のおかげで蔵書が500冊以上になりました。新しく寄贈された絵本は、館内の階段側のコーナーに、その他の絵本は英語の絵本コーナーにあります。中央図書館へご来館の際は、英語の絵本コーナーもチェックしてみてくださいはいかがでしょうか？

次回は2月開催の予定です。これからも英語の絵本を通じて、国際理解の増進と異文化交流に寄与されることに期待します。

状況写真



読み聞かせの様子



↑ 梅光学院の生徒さんもゲスト参加しました



英語の絵本コーナー



ゲームやプレゼントもあって、子どもたちは大喜びでした！

取材先	COSMOS (児童英語研究会)		
企画名	COSMOS (児童英語研究会) のクリスマス会		
備考			
取材日	平成30年(2018年)12月22日(土) [9:30 ~ 11:30]	取材地	彦島公民館 2階 講堂

レポート

COSMOS (児童英語研究会) は、子ども達の会話力・英語力・コミュニケーション能力を高め、外国の歴史・伝統・生活・文化に触れ合い、国際人としての醸成をはかることを目的とした団体です。主な活動は、月に2~4回英会話・英語のレッスン、児童英検や実用英検の開催です。また、シーズンごとのイベントとして今日はクリスマス会がありました。

まず初めに長岡代表の挨拶、来賓紹介がありました。長年英語教育に携われた長岡氏は国際色豊かで、いろいろな方が会を支援していることがわかりました。

クラッカーを合図に、じゃんけんゲームが始まりました。向かい合った人に「Nice to meet you!」と挨拶、握手をしたら「Rock, paper, scissors!」、じゃんけんで負けた人は勝った人の肩に手をかけて列を作っていきます。100名余りの参加者による長い長い一つの列が出来てゲームは終わりました。

ゲームや歌で楽しんだ後は、佐賀県出身のシンガーソングライター山崎賢一さんの弾き語りライブもあり、さらにクリスマスムードが盛り上がりました。

子ども達から日頃お世話になっている方々へ感謝のプレゼントが送られ、クリスマス会は終わりました。

先日、COSMOS (児童英語研究会) の子ども達は、下関駅東口で赤い羽根の街頭募金活動を行ったそうです。英語・コミュニケーション力の向上はもちろんですが、周りの方へ感謝の気持ちを伝えることや奉仕活動で人間力を高め、真の国際人として世界へ大きく羽ばたいて行かれることでしょう。

長岡代表よりみな様へ。お蔭さまでレッスンはいずれもほぼ満席、キャンセル待ちですが、多くの方々との繋がりを希望していますので、関心のある方はご遠慮なくお問合せをとのことです。

団体の益々のご繁栄とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

状況写真



長岡摩利花副代表(中央)と来賓の紹介



長岡真喜枝代表(左)と市民活動団体 Kananowa 理事 山本郁子氏



じゃんけんゲーム



椅子取りゲーム



サンタクロース登場!



お世話になった方へ感謝のプレゼントが送られました



山崎賢一さんの弾き語りライブ



ガールズスカウトのみなさま

取材先	高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）		
企画名	生野きらきら子ども食堂		
備考			
取材日	平成31年（2019年）2月19日（火） [15:30 ~ 19:30]	取材地	風の家

レポート

「高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）」は少子高齢社会の現実をしっかりと見つめ、すべての人たちが自立し、共に支え合い、安心して生きられる市民社会の創造を目指し諸問題を解決するために啓蒙活動を展開しながら、活動をしている団体です。

活動の一つに今回取材をした「生野きらきら子ども食堂」があります。子供の貧困や虐待などが報道されるたびに、子ども達の取り巻く環境をよくするために「何かできることはないだろうか」と考え、たどり着いた結論が「子ども食堂」。地域住民はもちろん、いろいろな世代の人々が集い、つながりができる場をつくるという思いで2016年7月19日に「生野きらきら子ども食堂」を始められたそうです。

「生野きらきら子ども食堂」の料理は、ボランティアの方の持ち寄りです。午後3時過ぎ、代表の田中隆子氏の台所ですすでに大きな鍋いっぱいのカレーが2人のボランティアの方により出来上がっていました。そしてスパゲティサラダの準備中でした。食中毒を防ぐため、野菜はすべて火を通すそうです。他に3人のボランティアの方が各自家で作られた料理がすでに運ばれていました。毎回40人分を用意するそうです。3ヵ月分の献立を事前に立てるそうですが、急に頂いた野菜等があれば、余分に料理もされるそうで、今回はとっても新鮮な大根の寄付があり“大根と牛すじ肉の煮物”を前日から代表の田中氏が作られたそうです。ベテラン主婦が作る料理は愛情たっぷり、どれも優しい家庭の味でした。

料理は向かいの“風の家”に運ばれ、5人の配膳ボランティアの方が一人前ずつ料理を盛り準備をされていました。大きな電気釜は2升炊き。午後6時過ぎ、子ども達とお母さんが次々に訪れ、手を洗い、運ばれた御馳走を楽しそうに食べていました。赤ちゃんから、お年寄りまで多世代の方がいらっしやるそうです。少ない時で10名、平均20名位の子もたちが利用されているそうです。この日は下関市立大学生も手伝いながら、食事をされていました。

この紙面ではとても伝えきれない代表の熱い思いと行動力、支える会員やボランティアの方の力を感じる時間となりました。皆様の力が子どもと地域の幸せにつながりますように！

状況写真



サラダを準備中



みんな笑顔で「いただきまーす！」



カレーを温めています(風の家)



食後は同じ敷地で勉強もできます



みんな大好きなカレーはバナナ・リンゴ入り、頂いた沢山のカリフラワーも入っています

今日はちょっと豪華！

- 本日のメニュー
- ・豚カレー
 - ・スパゲティサラダ
 - ・牛すじと大根の煮物
 - ・ロール白菜
 - ・ひじきの煮物
 - ・こかぶの酢の物
 - ・味付け卵
 - ・おかき

子ども食堂は毎週第1・3 火曜日 17:30~20:00 予約不要・無料

取材先	玄米ニギニギダンベル体操		
企画名	玄米ニギニギダンベル体操 ～みんなで心身共にリフレッシュ～		
備考			
取材日	平成31年(2019年)2月20日(水) [13:30 ~ 15:30]	取材地	しものせき市民活動センター 大会議室

レポ
ー
ト

玄米ニギニギダンベル体操は、高齢者でも安心して運動できる様に筒状の布袋に約300gの玄米を入れた「ニギニギ棒」を両手で握りしめながらゆっくりと行うダンベル体操です。用途により三角形も使用します。年齢を問わず子どもから高齢者まで手軽にできる健康体操です。11年前から活動をされており、初回より参加されている方もいます。

体操を始める前にまず、握力・脈を図り今日の自分の健康状態を知ります。次に軽いストレッチから血管ストレッチ、筋力トレーニングなどを無理のないよう休憩を挟みながら行い、基本の玄米ダンベルニギニギ体操をした後もっと効果的な全身運動「にぎにぎツイストウオーキング」をしました。最後に、資料を基に健康講話と健康でまた次回会いましょうの意味を込めた歌を合唱し終了しました。代表の日吉氏は、よく勉強をされており知識がとても豊富でした。

この体操の特徴は、ニギニギ棒をギュッと握りしめることで血液の流れを止め、一つの体操が終わって手を緩めることで血液をどっと流す。これを繰り返すことで基礎代謝が増し体脂肪が燃え引き締まった体になっていきます。また、生活習慣病の予防や改善にもつながります。

私も体験させていただきましたが、ニギニギ棒を持つてのゆるい体操でしたが、すぐに体がぼかぼかになり、全身を使っていたからか自宅に帰っても体がとても軽く家事が楽に出来ました。みなさんが続けているのも効果を感じることが出来るからかもしれません。

1日15分で効果が期待できるダンベル体操は、毎月第3水曜日、当センター大会議室で13時30分から行っています。明日を生き抜く健康づくりのために体験してみたいかですか。



取材先	NPO法人おれんじの会		
企画名	難病者アート展		
備考	世界希少・難病性疾患の日 (RDD Rare Disease Day 2019)		
取材日	平成31年(2019年)2月27日(日)天候 [13:30 ~ 15:30]	取材地	にししんギャラリー

レポート

「NPO法人おれんじの会」は特発性大腿骨頭壊死症患者とその家族に対して、医療福祉情報の提供、交流の場の提供に関する事業を行い、難病患者を生活者として包含する社会の形成に寄与することを目的にしている団体です。

毎年2月の末日は「世界希少・難治性疾患の日」(RDD)、より良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者さんの生活の質の向上を目指し、スウェーデンで2008年から始まった活動です。日本でも趣旨に賛同し、2010年より2月最終日にイベントを開催しています。

RDDに伴い、「NPO法人おれんじの会」主催のアート展が2月22日から28日まで開催されました。アートのジャンルは問わず、参加資格は難病患者または障害者の方とご家族の自主参加で今回で4回目。市内外からアート約120点が出展されていました。

コンピューターグラフィックの似顔絵は、顎とわずかに動く指先で描いたとは思えないほどユニークで目に飛びこんできました。また、テーマ“命”の画用紙いっぱいの作品は、大胆でそれぞれの作者の感性を感じました。会代表の渡邊利絵氏は4コマ漫画で健常者では気が付かない日常の不便さを上手に表現されていました。例えば、雨がりに傘を手を持って前を歩いている方の傘は後方の車椅子の方にとってはとても危険なことなど、そうか！と痛感。難病患者、障がい者のことを理解し、もっと思いやりのある人・街になればどんなによいでしょうか。

状況写真



来館者と懇談するメンバーやボランティア



「わかば」

テーマ
“命”



「笑顔」



西永佳代



徳野莉乃

市内在住の方の作品



4コマ漫画



eスポーツにかけた夢



田川若葉



コンピューターグラフィックの似顔絵

取材先	はあとふりい下関		
企画名備考	はあとふりい Cup それっちゃ!! ボッチャ大会		
取材日	平成31年(2019年)3月23日(土) [9:30~15:00]	取材地	下関市夢が丘スポーツセンター

下関市夢が丘スポーツセンターで開催された、はあとふりい下関さん主催の「はあとふりい Cup それっちゃ!! ボッチャ大会」に行ってきました。

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性まひの方又は同程度の四肢重度機能障害の方のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技です。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具(ランプス)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができる方であれば、どなたでも参加できます。

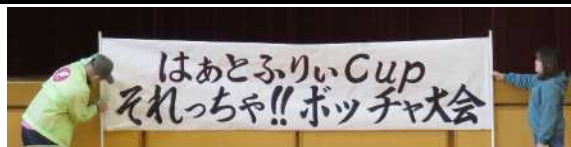
当日はゲストとして、ころんやチビチビフークくんも会場に来ていて、歌の発表などもあり、にぎやかな大会になりました。参加された方は競技を通じて交流を深めていました。

レポート

状況写真



山本千栄子代表



ころんちゃん和チビチビフークくん



平成 3 0 年度
市民と行政・市民と市民の
パートナーシップ年次報告の評価について
(答 申)

令和元年 9 月 1 8 日

下関市長 前田 晋太郎 様

下関市市民協働参画審議会
会長 鷲尾 圭司

平成 3 0 年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ
年次報告の評価について（答申）

令和元年 8 月 2 2 日付け下ま第 1 0 1 1 号にて諮問のありました、平成 3 0 年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告の評価について、当審議会は、それぞれの立場や経験を基に慎重に審議いたしましたので、下記のとおり答申いたします。

記

年次報告に対して様々な角度から検討を加えましたが、下関市としての市民協働参画を推進していく上で、「何が課題であるかを見えるようにする」ことが、次のステップへの改善点ではないかと考えます。併せて、以下に掲げる諸課題への対応を進める必要があると評価します。

- 1 年次報告に掲載されている施策事例の紹介により、各実施機関で実施されている事業が伝わりやすくなったことについては評価したい。これを引き続き実施されるとともに、下関市の市民協働参画全体が見渡せるような工夫や、施策事例と同一分野の活動を事業名だけでも列記することができないか検討されたい。
- 2 市民協働参画に関する実施事業数は増加しているものの、実施施策数は減少しており、下関市の市民協働参画の状況は、横ばい、どちらかというと後退しているものと認識される。本年次報告には、

詳細な情報が盛り込まれており、様々な観点からの現状がつかめるが、次回の年次報告には、本市における「課題」を明記することを検討されたい。

- 3 施策の実施に際しては、単に施策を実施して終わるのではなく、PDCAサイクルを念頭に置き、反省すべき事項の洗い出しを行った上で、次の改善に繋げていくよう配慮されたい。また、市民の参画を待つだけでなく、市から働きかけをして、市民のニーズをくみ上げるよう努められたい。
- 4 パブリックコメントの実施については、意見回収箱が市民の目に留まる場所に置かれるようになる等、一定の改善が図られたことについては評価したい。引き続き、実施に際しては、市民に十分周知することはもとより、市民の関心を引くような工夫に努められたい。加えて、パブリックコメントの内容が誰にでも理解できるよう配慮されたい。
- 5 在期数3期以上の委員を含んで構成される附属機関の割合が全体の4分の3弱を占める現状は、附属機関のマンネリ化を招きかねないと考える。各附属機関における公募委員の比率を高めるとともに、下関市市民協働参画条例第14条第2項（附属機関に公募委員を含まないことができる規定）の適用については、慎重に判断されたい。また、各附属機関における委員の構成については、男女比率及び年齢構成についても配慮されたい。

以上

令和元年12月作成

下関市 市民部 まちづくり政策課

〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号

直通 083-231-1830

FAX 083-231-1809

E-mail skshimin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp